

東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科年報

2020年度



2022年3月

はしがき

ナイチンゲール没後 200 年を過ぎてもなお、日本では看護学が自律した専門分野となるには多くの難題が待ち受けています。そんな中ですが、東京医科歯科大学大学院、保健衛生学研究科看護先進科学専攻は、がん看護と急性・重症患者看護の専門看護師教育課程としての認定を目指しております。過去には専門看護師を牽引してきた本学も、遅ればせながら国際水準である 38 単位の、高度実践看護師教育を提供できる機関となれたらと思います。次は学部教育も、看護学の国際水準にしていく必要があります。具体的には、看護学の専門家による分野別機能評価に耐えうるカリキュラムにしなければなりません。2022 年からのカリキュラム改正にあわせて、日夜検討を重ねております。

また、新型コロナの流行により、保健所、病院、相談センターなどの支援に、大学院生と教員がそれぞれ大活躍してくださいました。その一方で、参加観察やインタビューなどがままならず、看護学における研究活動にも大きな影響を受けました。臨床実習の姿も、リプロダクティブヘルス看護学分野を除き、多くの分野では実習期間の短縮やリモート実習とならざるを得ず、教育にも大きな影響がありました。

弱小集団ではありますが、指定国立大学法人における看護学の研究科として、看護の独自性と専門性を追求する実践家・教育者・研究者仲間を、さらに増やしていく必要が生じてまいりました。看護学の研究科として、時代の要請に応えうる新たな実践、教育、研究に挑戦し、人々の幸福に貢献できるよう、ますます努めてまいりたいと思っております。

2022 年 3 月吉日

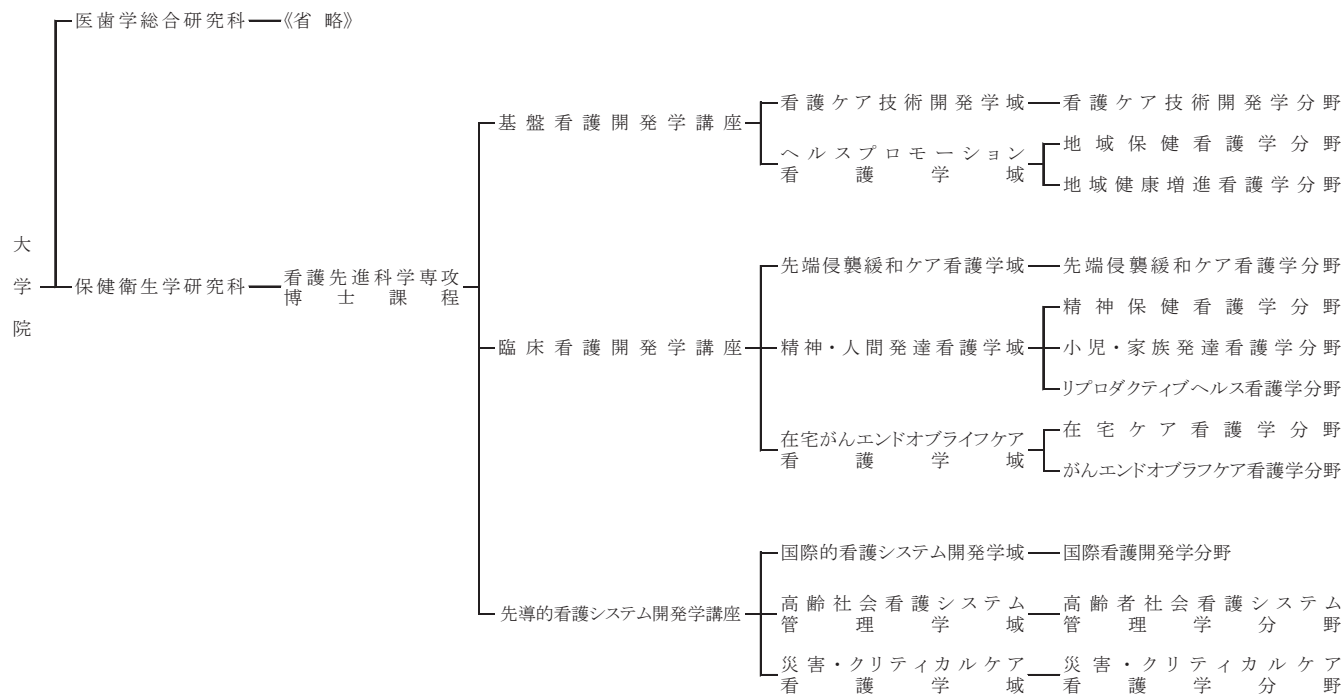
東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科長 大久保功子

目 次

I. 機構図	2
II. 各教育研究分野における教育・研究	
看護先進科学専攻	
基盤看護開発学講座	
看護ケア技術開発学域	
看護ケア技術開発学分野	4
ヘルスプロモーション看護学域	
地域保健看護学分野	7
地域健康増進看護学分野	10
臨床看護開発学講座	
先端侵襲緩和ケア看護学域	
先端侵襲緩和ケア看護学分野	13
精神・人間発達看護学域	
精神保健看護学分野	16
小児・家族発達看護学分野	21
リプロダクティブヘルス看護学分野	24
在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
在宅ケア看護学分野	27
がんエンドオブライフケア看護学分野	31
先導的看護システム開発学講座	
国際的看護システム開発学域	
国際看護開発学分野	33
高齢社会看護システム管理開発学域	
高齢社会看護システム管理学分野	36
災害・クリティカルケア看護学域	
災害・クリティカルケア看護学分野	41
III. 2020年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	48
IV. 2020年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文題目一覧表	52
V. 委員会委員名簿	54
VI. 就職状況一覧表（2021年3月卒業・修了者）	56

I . 機 構 図

東京医科歯科大学大学院機構図（2020年4月1日）



Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

看護ケア技術開発学

Innovation in Fundamental and Scientific Nursing Care

教 授 柏木聖代
助 教 森岡典子
助 教 大河原知嘉子

大学院生
5年一貫制後期課程
樺島稔
柴野裕子
古川彩子

(1) 分野概要

看護ケア技術は看護専門職者が習得した有形・無形の技であり、対象の全人的なアセスメントに基づいて個々に提供されます。看護ケア技術の中には、その有効性がすでに検証され、社会に広く還元されているものもありますが、多くは個人の経験に基づく暗黙知のまま体験と共に伝承されてきており、看護ケアのプロセスの可視化や有効性の検証は進んでいない現状にあります。この現状を改善すべく、ヘルスサービスリサーチ等の学際的研究手法を用いた看護ケアの質に関する実証研究に積極的に取り組んでいます。そして、これらの研究成果を世界に発信することを通じて、質の高い看護ケアが必要な人に提供される社会の実現を目指しています。

(2) 研究活動

1) ナーシング・ヘルスサービスリサーチ

国や自治体レベルのデータ分析等を通じ、病院・施設・在宅等における主に看護サービスの質（インプット・プロセス・アウトカム）に関するヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。

2) リアルワールドデータを活用した看護サービスの質・政策評価研究

レセプトや電子カルテなどのリアルワールドデータを用いた学際的アプローチにより、看護サービスの質・政策評価にかかる研究に取り組んでいる。

3) 保健医療人材の需給推計および地理的分布に関する研究

看護職等の保健医療人材の需給推計、地域偏在や人材供給量の検証に取り組んでいる。

4) 看護実践の可視化・知識ベースの開発

優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論の検討を行っている。

(3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院では、主にナーシング・ヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究の進捗に対して、分野の全院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では基礎看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行っている。

1年次には専門科目の基礎看護学Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅰを開講した。基礎看護学Ⅰは看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基礎看護学実習Ⅰは医学部附属病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指している。

2年次は、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱを開講している。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指している。また、基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」、「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いている。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の仕方について指導した。学内での発表にとどまらず、学会発表、学術誌への論文投稿できるよう指導を行なっている。

2) 大学院教育

大学院教育では看護ケア技術開発学特論ⅠⅡ、および看護ケア技術開発学演習Ⅰ、看護政策学特論、特別研究Ⅰ・Ⅱを担当している。

ヘルスサービスリサーチに関する手法を学び、国内外の健康政策立案に資する研究成果を看護の立場から発信できるよう、指導を行っている。自身の研究テーマに加え、分野で取り組んでいる大規模研究プロジェクトへの参画等を通じ、専門的な知識や技術のみならず、研究者としての実践経験を積み重ね、国内外で活躍できる人材の育成を目指している。

(5) 臨床活動および学外活動

研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また、他大学との共同研究や地域の病院等との共同研究や研究支援を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Masayo Kashiwagi, Nanako Tamiya. Awareness-raising activities for community residents about decision-making regarding end-of-life care: A nationwide survey in Japan municipalities. *Geriatrics & Gerontology International*. 2020.01;
2. Kousuke Maeda, Masayo Kashiwagi, Chikako Okawara, Akihiro Shuda. Effect of warm footbath on cerebral activity in the prefrontal cortex お茶の水看護学雑誌. 2020.03; 14(1); 1-14

3. Sasaki M, Ogata Y, Morioka N, Yonekura Y, Yumoto Y, Kei Matsuura, Shinobu Nomura, Robert C. Liden. Reliability and validity of the Multidimensional Measure of Leader-Member Exchange Japanese version for staff nurses Journal of Nursing Management. 2020.06;
4. Kousuke Maeda, Masayo Kashiwagi, Chikako Okawara. Effect of foot bath on cerebral activity and indicators of physiological evaluation of the effect of foot bath : A literature review 日本看護評価学会誌. 2020.07; 10(1); 13-22

[総説]

1. Kousuke Maeda, Masayo Kashiwagi, Chikako Okawara. Effect of foot bath on cerebral activity and indicators of physiology evaluation of the effect of foot bath: A literature review Journal of the Japan Academy of Nursing Evaluation. 2020.07; 10(1); 13-21

[講演・口頭発表等]

1. 津田泰伸、森岡典子、友滝愛. 日本語で利用可能な看護師の「根拠に基づく実践」の自己評価尺度：スコアピングレビュー. 第40回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 オンライン開催

[受賞]

1. 2019年度東京医科歯科大学医学研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2020年03月

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員（大河原知嘉子）, 東京医科歯科大学, 2014年04月01日 - 現在
2. 東京都訪問看護ステーション協会顧問（柏木 聖代）, 2015年07月01日 - 現在
3. 日本在宅看護学会 理事（柏木 聖代）, 2015年09月 - 現在
4. 日本医療・病院管理学会 事業委員会（柏木 聖代）, 2016年05月 - 現在
5. なるほどテキストマイニング（大河原知嘉子）, 医学書院, 看護研究, 2016年12月15日 - 現在
6. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問（柏木 聖代）, 2017年08月 - 現在
7. 日本混合研究法学会 編集委員（大河原知嘉子）, 2017年12月01日 - 現在
8. 日本混合研究法学会 事務局（大河原知嘉子）, 2018年04月01日 - 現在
9. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長（柏木 聖代）, 2018年06月 - 現在
10. 日本医療・病院学会事業委員会委員（柏木 聖代）, 2018年06月06日 - 2020年06月06日
11. 日本在宅看護学会理事（柏木 聖代）, 2018年06月09日 - 2020年
12. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構学位審査会専門委員（柏木 聖代）, 2018年10月01日 - 2020年03月31日
13. 茨城県看護協会「訪問看護ステーション機能強化事業運営委員会」委員（柏木 聖代）, 2018年12月11日 - 2020年03月31日
14. 日本混合研究法学会 理事（大河原知嘉子）, 2019年04月01日 - 現在
15. 第6回日本混合研究法学会年次大会 実行委員（大河原知嘉子）, オンライン開催, 2019年10月 - 2020年10月25日

地域保健看護学

Community Health Nursing

教授	佐々木 明子
助 教	津田 紫緒
技術補佐員	貞廣 彩子
大学院生	金屋 佑子
	田沼 寮子
	巽 夕起
	本田 順子
	塩満 智子
	木村 光佑
	木村 佳菜
	小野寺 春香

(1) 分野概要

地域保健看護活動の専門的な知識・技術を習得し、地域で生活する人々の健康の保持・増進と質の高い生活に寄与するための教育を行っている。また、地域保健看護学の実践を発展させ、その有用性を検証するための開発的な研究を行っている。

さらにフィンランド、スウェーデンなど北欧などをはじめとする外国の教育者・研究者・実践者との交流を通し、国際社会に適応できるアカデミックマナーを習得して、日本国内のみならず、国際的に活躍できる地域保健看護学分野の教育者、研究者、実践者の育成をする教育と研究を行っている。

これらの教育・研究活動を通して、地域の人々を尊重し、人々の健康と質の高い生活に貢献していくことを目指している。

(2) 研究活動

本分野における研究課題は地域保健看護学の実践的な課題解決または改善の方策、新しい課題に対する地域保健看護活動方法の開発と評価および理論構築である。具体的研究内容は以下に示すとおりである。

1. 個人・家族・グループ・地域に対する地域保健看護活動の理論と実践
2. 地域診断、健康教育、介護予防、訪問指導、地区組織活動、産業保健活動の展開方法
3. 地域保健活動の施策化、社会資源の活用と開発
4. 地域保健看護活動の事例分析などによる評価
5. 地域における看護実践やサービス提供システムの国際比較研究などである

主に行った研究テーマは、1. 高齢者の連想法に関する研究、2. 地域看護職者による高齢者全数の予防訪問の実施方法と効果、3. 高齢者に対する介護予防プログラムの評価に関する研究、4. 高齢者の看取りにおける看護職への教育プログラムの開発、5. 医療保険者における保健師の活動に関する研究、6. 産業保健における包括的支援に関する研究等であった。

これらの研究のために国内では九州地方、東北地方の市町村及び高齢者施設等と研究における連携を深めた。また、関東地方の事業場、医療保険者等との研究体制の整備し、調査実施、適宜情報共有の場を設け、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、タンペレ大学にて共同研究の検討を行った。

学部学生は、「COVID-19 による休校措置に伴い養護教諭が行った児童の精神的課題への対応」(2020 年度、池谷紗英)、「養護教諭における心の健康課題を持つ中学生への支援プロセス」(2020 年度、菊池優香)、「乳児家庭に

対し保健師が行う電話による支援の実際と困難」(2020 年度、河野晴華)、「新型コロナ禍における乳幼児健診ができない場合の母子への支援と課題」(2020 年度、長谷川真由)、「技能実習生への健康支援における現状と課題と今後の課題」(2020 年度、濱本理沙) というテーマで卒業研究をまとめた。

大学院生は「認知機能の低下予防に着目した集団教育の効果」(2019 年度、金屋佑子)、「妊娠を契機として女性の喫煙状況が変化するプロセス」(2019 年度、板井麻衣)、「在宅認知症高齢者に対する訪問看護師のケア行動と利用者のアウトカムの関連」(2019 年度、田沼寮子)、「思春期の子を持つ親の養育に関する主観的幸福感と負担感に関する要因」(2019 年度、巽夕起)、「対人支援を行う行政保健師の感情労働の特徴に関する研究」(2019 年度、本田順子)、「労働者を対象とした運動習慣とロコモティブシンドローム予防のための運動プログラムの検証」(2019 年度、塩満智子)、「地域で生活する精神障害者の被害に関する研究」(2019 年度、木村佳菜)、「訪問看護師がかかわる慢性疾患の在宅高齢者とその家族に対するアドバンストケアプランニングの実践と患者・家族の満足度に関する研究」(2019 年度、木村光佑) というテーマについて研究を行っている。大学院生の研究を実施するにあたり、関東地方、東海地方、関西地方等の市町村及び地域包括支援センターの協力を得た。

(3) 教育活動

1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させながら、地域保健看護活動の理論と実践と研究の統合を目指して教育をしている。

2020 年度の学部学生の実習は、保健師コース(選択制)の学生が対象となり、地域保健として東京都特別区の文京区(保健サービスセンター本郷支所)、足立区(中央本町地域・保健総合支援課、東部保健センター、竹の塚保健センター)、墨田区(向島保健センター、本所保健センター)、台東区(台東保健所)、葛飾区(金町保健センター)、北区(北区保健所・滝野川健康支援センター)の6区(10か所)で行った。東京都特別区以外の地域保健では、千葉県船橋市保健所、千葉県松戸市高齢者支援課、茨城県美浦村保健センター、群馬県前橋市保健所で実習を行った。学校保健としては筑波大学附属小学校、また、産業保健として株式会社 JAL グランドサービス、キャノン電子株式会社、日本航空株式会社、TOTO ハイリビング株式会社、ヤマトシステム開発株式会社、ソニー生命保険株式会社(リモート)で実習を実施した。

2) 大学院教育

主に地域保健学特論 A、地域保健看護学演習 A、地域保健看護学特論、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱを担当している。

行政機関や事業所における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように教育を行った。さらに、大学院生が国際的な教育、研究、実践活動に参画する機会を提供した。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では保健所、市町村保健センターなど行政機関や事業場などの地域保健看護活動について、制度、法的根拠を理解すると共に、地域の保健看護ニーズのアセスメント、計画、実施、評価と保健看護活動の具体的な展開方法について総合的に学べることを目指して教育を行っている。人々の健康を保持増進する支援を行うために、人々の生活とそれを取り巻く社会環境を含めて捉える視点を養っている。

2) 大学院教育

(1) 教育研究領域は行政機関や事業場における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように指導する。学内における講義・演習・実習、学内外における研究会への参加、学会発表、フィールドワークをとおして地域保健看護学分野における高い実践力と教育・相談・研究能力を修得する。各自の研究課題は地域保健看護学の実践場面に参加して実用可能性を含めた検討を行い、独創的かつ有用な成果を得られるものとなるよう指導する。大学院生は、各自の関心にそって研究テーマを選び、新たな地域保健看護技術や地域保健看護活動の展開方法・地域保健看護システムの開発と地域保健看護学の理論の構築を含めて、研究を進めている。

(2) 大学院保健衛生学研究科の提携大学であるフィンランドのセイナヨキ応用科学大学の他、教員が研究交流を行っているスウェーデン等の大学・実践機関等との連携により、滞在型の研修・研究を行う機会を設けている。

(3) 国内外の地域保健医療福祉に関連する専門職者との共同プロジェクト研究のうち、学生の関心によりテーマを選択し、研究・実践能力を修得して、独創的な研究を行う機会を提供している。

(4) 国内外の学会、外国人研究者の招聘セミナーや国際共同研究の参加、国内外学術雑誌への発表などの積極的な活動を学生に奨励し、指導し、発表を行っている。

(5) 国外の大学・実践機関の研究者、専門識者との積極的な交流を大学院生に奨励、指導している。

(5) 研究業績

[原著]

1. 山本晴美, 森田久美子, 永嶺仁美, 青木利江子, 小林美奈子, 呂曉衛, 佐々木明子. 都市規模別にみた学童保育における高齢者との世代間交流プログラムの現状と今後への期待 老年社会科学. 2020.01; 41(4); 391-399
2. 吉永 砂織, 津曲 香菜子, 塩満 智子, 鶴田 来美. 温泉入浴中の運動が肩こりに及ぼす影響 日本健康医学会雑誌. 2020.01; 28(4); 402-406

[講演・口頭発表等]

1. Shio Tsuda, Helli Kitinoja, Yoneko Kubota, Hisae Nakatani. Working Caregivers in Super-Aged Societies: A Comparison between Finland and Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02 Osaka
2. Akiko Sasaki, Kumiko Morita, Mitsu Ono, Mie Hokuto, Tomoko Tanuma, Tomoko Shiomitsu, Atsuko Kojima, Shinya Asao, Sanae Tomiyama, Chiharu Tokuda. The effect of "Life Association Method" in the preventive care for community-dwelling elderly people. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. 2020.02.29 Osaka
3. 津田 紫緒, 中谷 久恵. 親介護に直面する労働者の経験についての文献検討. 第 79 回日本公衆衛生学会総会 2020.10 京都
4. 中谷 久恵, 津田 紫緒. 産業保健における家族支援に関連する専門職の国際比較調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会 2020.10 京都
5. 野村政子, 照沼正子, 佐々木明子, 北東美枝, 森田久美子, 中野正孝, 金屋佑子, 巽夕起, 本田順子. 保健師の活動の質向上に資する観点からみた家庭訪問記録電子化の課題. 第 79 回 日本公衆衛生学会 2020.10.21
6. 北東美枝, 佐々木明子, 森田久美子, 照沼正子, 野村政子, 中野正孝, 金屋佑子, 巽夕起, 本田順子. 地域保健活動における家庭訪問記録の共有状況について. 第 79 回 日本公衆衛生学会 2020.10.21
7. 佐々木明子, 大島扶美, 大島裕紀, 高山喜志子, 北東美枝, 森田久美子, 小野ミツ, 田沼寮子. 通所リハビリを利用する高齢者の介護予防における「連想法」の効果. 第 79 回 日本公衆衛生学会 2020.10.21
8. 野村政子, 照沼正子, 佐々木明子, 北東美枝, 森田久美子, 中野正孝, 金屋佑子, 巽夕起, 本田順子. 保健師の活動の質向上に資する観点からみた家庭訪問記録電子化の課題. 第 79 回 日本公衆衛生学会 2020.10.21
9. 中谷 久恵, 藤田 麻理子, 津田 紫緒. 産業看護職が行う家族支援技術の因子的妥当性. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会 2020.12.25 オンライン

[社会貢献活動]

1. 日本高齢者虐待防止学会評議員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009 年 07 月 01 日 - 現在
2. 日本在宅ケア学会 査読委員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2012 年 04 月 01 日 - 現在
3. 日本在宅ケア研究所倫理審査委員会委員 佐々木明子, 2013 年 04 月 01 日 - 現在
4. 日本在宅ケア学会評議員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
5. 日本公衆衛生学会代議員 佐々木明子, 日本公衆衛生学会, 2017 年 07 月 01 日 - 現在
6. 日本在宅ケア教育研究センター理事 佐々木明子, 2019 年 05 月 - 現在
7. 東京都新型コロナウイルス受診相談窓口への協力, 2020 年 04 月 01 日 - 2020 年 05 月 18 日
8. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020 年 04 月 08 日 - 現在

地域健康増進看護学

Community Health Promotion Nursing

森田 久美子 (准教授)
山本 晴美 (大学院生)
呂 暁衛 (大学院生)
三村 祐美子 (大学院生)
丸山 佳代 (大学院生)
保木 みか (大学院生)
大竹 文 (大学院生)
角田 紘子 (大学院生)
庄司 花円 (大学院生)
三橋 佳代子 (大学院生)
中野 愛子 (研究生)

(1) 分野概要

本分野における教育・研究の内容は、対象の年齢も活動の場も非常に多岐にわたります。幼少期から良い生活習慣を習得し、中高年期での高い健康レベルとQOLを維持できるようにするためにはどのような対策が必要か、それを保健医療福祉制度や公衆衛生、産業保健といった観点から学んでいきます。

健康教育では、正しい情報、知識を提供することも大切ですが、それ以上に健康教育を受けた対象者が行動変容を起こし、病気の予防・改善につながることを最も重要になります。そのために、どのような健康教育が効果的なのか、企画・実施・評価それぞれの段階で検証していくことを目標としています。

研究は、主として高齢者と子ども達との世代間交流や、地域・在宅で暮らす高齢者の介護予防、産業保健分野での生活習慣病予防等に関する調査を行っています。

(2) 研究活動

最近の研究テーマは、「世代間交流プログラムの効果」です。高齢者と若い世代の交流が、以前に比べて非常に少なくなっている現在、高齢者と子ども達が交流を行うことにより、双方にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的に調査を実施しています。また、共同研究として「予防訪問の有用性と効果的運用方法」「地域保健活動における家庭訪問の成果を評価できる電子訪問記録の開発」に関する調査の一部を分担して行っています。

(3) 教育活動

学部教育では、看護学専攻の専門共通分野に含まれる産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習を担当しています。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出現される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっています。本分野を選択した学生の研究テーマは、「女子大学生のボディイメージ、食行動、自尊感情の関連性」「大学生の食生活の現状と間食に関する意識」「子宮頸がん予防に関する意識調査」「臓器移植に関する紙面上の情報提供が与える認知度向上への効果」などさまざまです。研究については、出来る限り学生の主体性を尊重し、興味関心のあるテーマで研究が進められるようにサポートしています。

大学院教育では、健康寿命の延伸を目指して、日常の生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、その基本的考え方と研究法を修得する、また健康教育技法について、国内外の文献を吟味し、企画から評価までの

一連の流れを講義と討議により修得するということを目標としています。地域健康増進看護学特論・演習では、よりよい健康を目指して、人々が行動変容するために必要な支援は何かを考え、健康教育の企画から評価までの一連の流れを演習する、また、健康教育の理論や技術を学び、さまざまな対象、地域にあわせた健康教育を実践できる能力・研究方法を演習により修得することを目標としています。

(4) 研究業績

[原著]

1. 山本晴美, 森田久美子, 永嶺仁美, 青木利江子, 小林美奈子, 呂曉衛, 佐々木明子. 都市規模別にみた学童保育における高齢者との世代間交流プログラムの現状と今後への期待 老年社会科学. 2020.01; 41(4); 391-399

[総説]

1. 大竹 文, 永嶺仁美, 丸山佳代, 角田紘子, 森田久美子. 精神障害をもつ人のニーズアセスメント尺度に関する 文献検討 —Camberwell Assessment of Need との比較検討— 日本看護科学会誌. 2020.12; 40; 298-304

[講演・口頭発表等]

1. Minako Kobayashi, Kumiko Morita. The mediating effect of spiritual care on social capital and physical and mental health. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.28
2. Kumiko Morita, Rieko Aoki, Minako Kobayashi, Hitomi Nagamine, Harumi Yamamoto, Kayo Maruyama, Mika Hoki, Fumi Ohtake, Hiroko Sumita, Akiko Sasaki. The effects and relevant factors of Community Living Room in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29
3. Hitomi Nagamine, Kayo Maruyama, Xiaowei Lyu, Kumiko Morita. Awareness of susceptibility to diabetes-affected lifestyle changes among young healthy adults after primary diabetes prevention program intervention. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29
4. Kayo Maruyama, Hitomi Nagamine, Kumiko Morita. The association between dietary habits and health literacy and healthy behavior among parents of primary school children. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29
5. Fumi Ohtake, Kumiko Morita, Harumi Yamamoto, Hitomi Nagamine, Kayo Maruyama. A narrative analysis of the interpretation of personal recovery as expressed by mental health supporters. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29
6. Akiko Sasaki, Kumiko Morita, Mitsu Ono, Mie Hokuto, Tomoko Tanuma, Tomoko Shiomitsu, Atsuko Kojima, Shinya Asao, Sanae Tomiyama, Chiharu Tokuda. The effect of "Life Association Method" in the preventive care for community-dwelling elderly people. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. 2020.02.29 Osaka
7. 森田久美子, 小林美奈子, 青木利江子, 永嶺仁美, 山本晴美, 大竹文, 保木みか, 角田紘子, 丸山佳代, 三橋佳代子, 佐々木明子. 地域の居場所における多世代交流の実態調査 ～新潟市「地域の茶の間」の実践状況より. 第11回日本世代間交流学会 2020.10.16 オンライン開催
8. 佐々木明子, 大島扶美, 大島裕紀, 高山喜志子, 北東美枝, 森田久美子, 小野ミツ, 田沼寮子. 通所リハビリを利用する高齢者の介護予防における「連想法」の効果. 第79回 日本公衆衛生学会 2020.10.21
9. 野村政子, 照沼正子, 佐々木明子, 北東美枝, 森田久美子, 中野正孝, 金屋佑子, 巽夕起, 本田順子. 保健師の活動の質向上に資する観点からみた家庭訪問記録電子化の課題. 第79回 日本公衆衛生学会 2020.10.21
10. 北東美枝, 佐々木明子, 森田久美子, 照沼正子, 野村政子, 中野正孝, 金屋佑子, 巽夕起, 本田順子. 地域保健活動における家庭訪問記録の共有状況について. 第79回 日本公衆衛生学会 2020.10.21

[社会貢献活動]

1. 日本在宅ケア学会 査読委員, 2010 年 - 現在
2. お茶の水看護学研究会 編集委員, 2010 年 04 月 - 現在
3. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 2010 年 04 月 - 現在
4. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 2012 年 11 月 - 現在
5. 日本看護科学学会 査読委員, 2015 年 - 現在
6. 日本世代間交流学会 編集委員, 2015 年 01 月 - 現在
7. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 2015 年 10 月 - 現在
8. 日本地域看護学会 査読委員, 2016 年 - 現在

先端侵襲緩和ケア看護学

Critical and Invasive-Palliative Care Nursing

教授	田中 真琴
准教授	川上 明希
助 教	川本 祐子
大学院生	石塚 紀美
	松井 憲子
	畑中 佳子
	藤田 和寿
	染谷 彰
	岩下 絵梨香
	大脇 那奈
	小坂 志保
	川島 徹治
	蘆田 薫
	八鍬 類子
	堀田 宗一郎
	村上 悠樹

(1) 分野概要

近年のめざましい医療技術の発展に伴い、高度医療によって救命や延命される機会が向上しました。また、難治性の慢性疾患に関しても、新しい治療法の開発が進んでおり先端医療の恩恵を受ける人々も増えています。先端侵襲緩和ケア看護学では、このような状況下にある患者や家族の苦痛等を緩和し、安全安楽にその人らしく生活できるよう支援するために、また病気とうまく付き合っていけるよう支援するために、重篤期から回復期、セルフマネジメントに至るまで、さらには緩和ケアを含めた専門的看護のあり方と看護支援方法に関する教育や研究を行っています。

(2) 研究活動

研究については、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいます。

【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】 慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネジメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいます。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っています。

【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族のQOL向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいます。

侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功・回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っています。

(3) 教育活動

教育については、学部教育では成人看護学を担当しています。2年次では、講義を中心として成人期にある人々の理解と必要な看護の原則について教授しています。3年次前期では、シミュレーションを取り入れた演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合を行い、第一線で活躍する看護師による実践論の講義を通して、多様な看護の可能性について学生の理解や関心の向上を支持しています。そして、3年次後期には、本学医学部附属病院の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとに成人看護学実習を展開しています。また当分野での卒業研究を選んだ学生については、学生の知的好奇心を大いに刺激しつつ指導に当たっています。

大学院教育では、当分野の研究指導は、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、学位論文として当該領域の発展に寄与する研究となるよう、ゼミと個別指導を効果的に組み合わせて実施しています。成人領域における看護の専門性の追求と発展を目指した教育、研究指導を行っています。

(4) 研究業績

[原著]

1. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Shin Maeda, Reiko Kunisaki, Donald E Morisky. Validity and reliability of the Japanese version of the Morisky Medication Adherence Scale-8 in patients with ulcerative colitis Gastroenterology Nursing. 2020; in press;
2. 小坂 志保. 【腎代替療法と Shared Decision Making】SDM ツールの開発 臨床透析. 2020.03; 36(3); 281-287
3. Kawakami Aki, Choong Lee Meng, Tanaka Makoto, Kunisaki Reiko, Maeda Shin, Bjarnason Ingvar, Hayee Bu'Hussain. Validation of the English version of the difficulty of life scale for patients with ulcerative colitis EUROPEAN JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY & HEPATOLOGY. 2020.03; 32(3); 312-317
4. Okugawa Saki, Shimizu Hideyuki, Hayashida Kentaro, Kawamoto Yuko, Tanaka Makoto. Changes in the nutritional and activity status of elderly patients within 6 months of transcatheter aortic valve replacement: A mixed methods approach JAPAN JOURNAL OF NURSING SCIENCE. 2020.04; 17(2); e12305
5. Tetsuharu Kawashima, Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Saori Muranaka. Nurses' contribution to end - of - life family conferences in critical care: A Delphi study Nursing in critical care. 2020.05; Early View;
6. Naoko Ichikawa, Noriko Yamamoto-Mitani, Yukari Takai, Makoto Tanaka, Yukie Takemura. Understanding and measuring nurses' professionalism: Development and validation of the Nurses' Professionalism Inventory Journal of Nursing Management. 2020.08;
7. Kosaka S, Ohara Y, Naito S, Iimori S, Kado H, Hatta T, Yanishi M, Uchida S, Tanaka M. Association among kidney function, frailty, and oral function in patients with chronic kidney disease: a cross-sectional study. BMC nephrology. 2020.08; 21(1); 357

[書籍等出版物]

1. 看護理論家の業績と理論評価 第2版. 2020.03 (ISBN : 978-4260039611)

[総説]

1. 川本祐子、大場玲香. 看取り場所の選択に影響する要因に関する研究 地域ケアリング. 2020.04; 22(4); 38-43

[講演・口頭発表等]

1. Yuko Kawamoto, Sumika Oda, Makoto Tanaka. Antigen-avoidance behaviors of patients with hypersensitivity pneumonitis and the health promotion strategies of their medical providers: a scoping review. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science; the 6th WANS 2020.02 Osaka
2. Yuko Kawamoto, Reika Oba. Factors affecting a good death at home in Japan: an integrative review focusing on the choice of preferred place of death. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science; the 6th WANS 2020.02 Osaka

3. Ruiko Yakuwa, Makoto Tanaka. An overview of intervention studies for people living with HIV. 2020.02 Japan
4. Akira Someya, Makoto Tanaka. Patterns of staff medical care in promoting recuperation for patients with Unilateral Spatial Neglect.. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.28 Osaka
5. Kaoru Ashida, Makoto Tanaka, Aki Kawakami. Ethical beliefs in nurses working in intensive care units. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29 Osaka
6. 川島 徹治, 川上 明希, 蘆田 薫, 田中 真琴. 集中治療領域での終末期患者とその家族に対するインフォームド・コンセントにおける看護実践尺度の開発. 第40回日本看護科学学会 2020.12.13
7. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Hiroaki Ito. Coping strategies for possible flare-ups in patients with IBD who attend a specialized clinic: a comparison with national data. The 8th Annual Meeting of Asian Organization for CROHN' S & COLITIS 2020.12.16 Korea (Virtual)

[社会貢献活動]

1. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010年04月01日 - 現在
2. CKD・腎移植に関する勉強会, 2011年04月01日 - 現在
3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012年04月01日 - 現在
4. 日本看護科学学会 査読委員, 2015年10月01日 - 現在
5. 一般社団法人日本看護系大学協議会 広報・出版委員会委員(川本祐子), 2017年03月14日 - 2020年06月19日

精神保健看護学

Mental Health and Psychiatric Nursing

准 教 授	高野歩 美濃由紀子（休職中）
講 師	遠藤貴子（2020 年 4 月～）
助 教	栗林一人
技術補佐員	野沢恭介（2020 年 5 月～）
事務補佐員	野中順子（～ 2020 年 3 月） 江波戸夕香（2020 年 12 月～）
大学院生（博士後期） 5 年一貫博士課程	松浦佳代 高濱圭子 富川明子 栗原淳子（2020 年 5 月～） 平岩千明 及川江利奈

（１） 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援への必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。（学部・大学院教育）

また、当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。

本研究分野の主な研究テーマは、精神疾患患者とその家族のケア、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援、精神疾患患者の退院および地域生活促進、地域・学校保健・産業保健における精神保健問題の理解と支援、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上、司法精神医学・看護学に関する研究等である。

（２） 研究活動

1. 精神疾患患者とその家族への支援
2. 思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援
3. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
4. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
5. 司法精神医学・看護学に関する研究

(3) 教育活動

当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。2014年に認定の更新を行い、承認された。

(4) 教育方針

1) 学部教育

1. 看護心理学では、心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用する。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして、健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクセーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。
2. 精神看護学では、精神的な機能の障害を精神医学的な疾患論、病理学、診断学に基づいて評価する方法や、薬物療法、心理社会的治療、精神科リハビリテーションなどによって回復をもたらす方法について学ぶ。また、精神医療システムの中で看護職が保健医療チームの一員として、それらの知識や方法を看護的援助に生かしながら、どのような役割をとっていく必要があるかについて考察を深める。
3. 地域精神看護学では、精神保健福祉をめぐる社会状況と制度やシステムについての理解を踏まえて、看護師が地域の社会資源を活用しながら、精神障害者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて担うべき役割について学ぶ。
4. 精神看護学演習では、精神疾患患者の疾患や生活障害との関連、精神医療の歴史や治療環境の成り立ちが精神疾患患者の処遇に及ぼす影響についての理解を深め、精神疾患患者への心理・社会・生物学的な諸局面を視野に入れた全人的理解の深化を目指す。さらには、援助的な対人関係技術の向上を通じて、精神疾患患者の回復、成長、自立を支援するために必要な方法と、その理論的な背景について学ぶ。
5. 精神看護学実習は、精神科病棟及び地域における精神科通所施設で行う。カンファレンスでは「看護場面の再構成法」のワークシートを活用し、入院患者との対人関係を振り返って自己理解を深めることを通じて精神看護の実践能力を高めると共に、地域に暮らす精神障害者の生活実態に沿った地域支援について学ぶことを目標とする。入院患者や通所者との対人関係を体験する中で、セルフケア理論に基づいた看護過程を展開し、対象者の抱えている問題の明確化を図りながら援助関係を築いていく過程を重視している。

2) 大学院教育

1. 精神保健看護学特論 A-1 では、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組みと共に、様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について習得する。具体的には、精神医学的診断法や心理測定法、並びに精神医療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法の蓄積に学びながら、看護学独自の視点に基づく評価と援助の方法について修得する。
2. 精神保健看護学特論 A-2 では、精神的な問題をもつ人々とその家族に適切な看護的援助を提供する上で必要な内省技法、面接技法、グループワーク技法の理論的背景を学ぶと共に、精神保健看護学の分野における研究倫理、参加観察と質的研究の方法論について理解を深め、臨床家の問題意識に沿って研究課題を発見して明確化できる能力、ならびに研究成果を臨床の場で実践できる能力を修得する。
3. 精神保健看護学演習 A では、対人関係論、集団力動論の視点と方法論に則った看護事例検討会への参加とその振り返りを通じて、事例分析や看護評価の方法とその理論的背景、並びにグループによるスーパービジョン、コンサルテーションの実際を体験すると共に、個別のスーパービジョン、コンサルテーション、相談面接の理論と方法について習得する。
4. 精神保健看護学特論 B-1 では、精神保健福祉をめぐる社会状況と関連法規、社会制度の変遷について理解を深めると共に、看護師の視点から、現状の保健医療福祉システムが抱えている課題の克服に向けて、既存の制度や社会資源を活用し、患者の自助活動と連携していくための方法論や、制度改革の必要性和方向性について学ぶ。

5. 精神保健看護学特論 B-2 では、司法精神医療、司法精神医学、司法精神看護学の現状と課題、並びに理論的、歴史的背景の検討を中心に、暴力等による自傷他害の行為の見られる精神疾患患者の回復と自立の促進に向けた早期介入や入院時の個別ケアと併せて、心理教育、認知行動療法、芸術療法等の集団療法や、患者の自助活動を重視する治療共同体的な実践の方法論について習得する。
6. 精神保健看護学演習 B では、精神疾患患者の病状や心理社会的状況に応じた看護契約、権利擁護、アメニティ向上のための方法論、並びに急性期・回復期の看護、リハビリテーション看護、家族看護、在宅看護ならびにそれらの活動の充実に向けた看護管理やチーム医療を支える理論と方法論について、講義と討議によって習得する。
7. 精神保健看護学実習では、急性期、慢性期、回復期等各期における様々な病態の精神疾患患者への看護的援助を実施した経験を核とし、それをあらゆる角度から分析・検討することを通じて、精神的健康に問題を持つあらゆる人々に対して専門性の高い看護的援助、及び援助者への援助を実践できる能力を身につけることを重視する。
8. 精神保健看護学特論では、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得するとともに、治療的援助技法を活用した精神的な問題を持つ人とその家族への支援の実践を基盤に、精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Natsu Sasaki, Kotaro Imamura, Tran T T Thuy, Kazuhiro Watanabe, Nguyen T Huong, Kazuto Kuribayashi, Asuka Sakuraya, Bui M Thu, Nguyen T Quynh, Nguyen T Kien, Nguyen T Nga, Nguyen T H Giang, Truong Q Tien, Harry Minas, Melvyn Zhang, Akizumi Tsutsumi, Norito Kawakami. Validation of the Job Content Questionnaire among hospital nurses in Vietnam. *Journal of occupational health*. 2020.01; 62(1); e12086
2. Risa Kotake, Akiko Kanehara, Yuki Miyamoto, Yousuke Kumakura, Utako Sawada, Ayumi Takano, Rie Chiba, Makoto Ogawa, Shinsuke Kondo, Kiyoto Kasai, Norito Kawakami. Reliability and validity of the Japanese version of the INSPIRE measure of staff support for personal recovery in community mental health service users in Japan. *BMC Psychiatry*. 2020.02; 20(1); 51
3. Kuribayashi K, Imamura K, Tokita M, Shimazu A, Kawakami N. Effects of internet-based cognitive behavioral therapy on depressive symptoms among new graduate nurses: a pilot study. *Environmental and Occupational Health Practice*. 2020.03; 2(1);
4. Takano A, Miyamoto Y, Shinozaki T, Matsumoto T, Kawakami N. Effect of a web-based relapse prevention program on abstinence among Japanese drug users: A pilot randomized controlled trial. *Journal of substance abuse treatment*. 2020.04; 111; 37-46
5. Norito Kawakami, Thuy Thi Thu Tran, Kazuhiro Watanabe, Kotaro Imamura, Huong Thanh Nguyen, Natsu Sasaki, Kazuto Kuribayashi, Asuka Sakuraya, Quynh Thuy Nguyen, Nga Thi Nguyen, Thu Minh Bui, Giang Thi Huong Nguyen, Harry Minas, Akizumi Tsutsumi. Internal consistency reliability, construct validity, and item response characteristics of the Kessler 6 scale among hospital nurses in Vietnam *PLoS ONE*. 2020.05; 15(5);
6. Tran TTT, Watanabe K, Imamura K, Nguyen TH, Sasaki N, Kuribayashi K, Sakuraya A, Nguyen TN, Bui MT, Nguyen TQ, Truong QT, Nguyen THG, Minas H, Tsutsumi A, Shimazu A, Kawakami N. Reliability and validity of the Vietnamese Utrecht work engagement 9 items. *Journal of Occupational Health*. 2020.08; 62; e12157

[書籍等出版物]

1. 山崎智子, 佐々木吉子, 遠藤貴子 他. はじめての看取りケア—病棟・在宅・救急外来・災害現場のケアと支援—. メヂカルフレンド社, 2020.06 (ISBN : 9784839216610)

[総説]

1. 及川江利奈. 中年男性うつ病患者の職場復帰支援における看護実践とその課題 —産業保健師と精神看護専門看護師を対象としたインタビュー調査— 東京女子医科大学看護学会誌. 2020.03; 15(1); 35-41
2. 松浦 佳代. 医療観察法に基づく医療における看護実践に関する文献検討 日本精神保健看護学会誌. 2020.11; 29(2); 1-8

[講演・口頭発表等]

1. Takano A, Miyamoto Y, Shinozaki T, Matsumoto T, Kawakami N. Effect of a web - based relapse prevention program on abstinence: subgroup analyses of a randomized controlled trial. 43rd the Research Society on Alcoholism jointly with the International Society for Biomedical Research on Alcoholism 2020.06.22 Online
2. Takano A, Yamana H, Ono S, Matsui H, Yasunaga H. Improvement in drinking behavior following health checkups: retrospective cohort study using a health insurance claims database. 43rd the Research Society on Alcoholism jointly with the International Society for Biomedical Research on Alcoholism 2020.06.22 Online
3. Yasuma N, Imamura K, Watanabe K, Nishi D, Kawakami N, Takano A. Energy drink consumption in adolescence and the initiation of substance use: a systematic review. 43rd the Research Society on Alcoholism jointly with the International Society for Biomedical Research on Alcoholism 2020.06.22 Online
4. 高野歩. アディクション治療においてハームリダクションを生かすには. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2020.11.22 オンライン
5. 高野歩, 山名隼人, 大野幸子, 松居宏樹, 康永秀生. 高リスク飲酒者における受診と飲酒行動の変化の関連: 傾向スコアを用いた 健診・レセプトデータの解析. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2020.11.22 オンライン
6. 高野歩, 深澤舞子, 西大輔, 渡辺和広, 川上憲人. 思春期における職業価値観と成人期における薬物使用との関連: 長期前向きコホート研究. 第 55 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2020.11.23 オンライン
7. 金澤由佳, 熊倉陽介, 伴恵理子, 宇佐美貴士, 高野歩, 松本俊彦. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行に伴う VBP および薬物依存症地域支援への影響に関するアンケート調査. 日本更生保護学会第 9 回大会 2020.12.06 オンライン
8. 松浦佳代. 精神疾患を有する母親が入院から退院までに経験する心理過程の分析 親役割や親子関係に着目して. 第 40 回 日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 東京
9. 富川 明子. 精神障害者に対するトラウマインフォームドケアについての文献レビュー. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 オンライン

[社会貢献活動]

1. 企画委員, アルコール関連問題予防研究会, 2011 年 04 月 - 現在
2. フィリピン「科学的根拠に基づく薬物依存症治療プログラム導入プロジェクト」 国内支援委員会研究部会メンバー, JICA, 2017 年 05 月 - 現在
3. 査読委員, 日本精神保健看護学会, 2017 年 07 月 - 現在
4. Membership Committee, International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA), 2018 年 01 月 - 現在
5. 客員研究員, 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部, 2018 年 04 月 - 現在
6. 査読委員, 日本アディクション看護学会, 2018 年 12 月 - 2020 年 03 月
7. 普及アドバイザー, A/CRA/FT ASIA, 2019 年 01 月 - 現在
8. 社会貢献委員, 日本精神保健看護学会, 2019 年 09 月 - 現在

9. 和文誌専任査読委員, 日本看護科学学会, 2019 年 10 月 - 現在
10. 依存・嗜癖におけるハーム・リダクションの基礎, 薬物・精神・行動の会, 東京慈恵会医科大学, 2020 年 02 月 21 日
11. 「COVID-19 の対応に従事する医療者を組織外から支援する人のための相談支援ガイドライン」作成メンバー, 日本精神保健看護学会, 2020 年 04 月 - 2020 年 06 月
12. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020 年 04 月 08 日 - 現在
13. 日本家族療法学会第 37 回大会 実行委員, 日本家族療法学会, 2020 年 06 月 - 2020 年 09 月
14. 東南アジアと日本の薬物依存症治療の比較, 講談社, クーリエ・ジャポン, 2020 年 06 月 11 日
15. 厚生労働委託事業 新型コロナウイルス感染症に対する障害者施設等の職員のためのサポートガイド作成業務等一式, 厚生労働省, ガイドラインの作成事業メンバー, 2020 年 09 月 04 日 - 2021 年 03 月 31 日
16. ハームリダクション特別委員会, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020 年 10 月 - 現在
17. 広報委員会, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020 年 10 月 - 現在
18. 評議員, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020 年 10 月 - 現在
19. 理事, 日本アルコール・アディクション医学会, 2020 年 10 月 - 現在

小児・家族発達看護学

Child and Family Nursing

准教授	岡光	基子
助教	矢郷	哲志
技術補佐員	村松	三智（～2020年3月）
技術補佐員	吉田	多友子（～2020年3月）
大学院生	野村	智実（～2020年3月）
大学院生	鈴木	香代子
大学院生	勝本	祥子
大学院生	朝見	優子
研究生	来生	奈巳子
研究生	岡林	優喜子

（1）分野概要

小児看護学を専門とする教育分野として発足し、平成20年度からは、乳幼児精神保健に関する知識とスキルを持つ小児専門看護師（CNS）養成カリキュラムの運用を始め、小児看護の高度専門家の養成とその領域における研究を遂行している。研究においては、乳幼児とその家族に対する早期介入支援を主要なテーマとして取り組み、研究成果を報告している。また、日本語版 NCAST やファミリーパートナーシップモデルに基づく妊娠期からの育児支援など、専門職向けの講習会を開催している。

（2）研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害など、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップに基づく育児支援プログラム導入による介入効果の検証
- 5) 生後早期における父子の関係性支援介入
- 6) 周産期における母児エピゲノムの体系的解析
- 7) 幼児の社会・情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 8) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 9) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討
- 10) 子どもの問題行動と親のペアレンティングに焦点を当てたピア主導型育児支援プログラムの開発などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、6) においては、東京医科歯科大学医学部附属病院周産女性診療科、発生発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

（3）教育活動

- 1) 学部教育

小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、卒業論文Ⅱ、看護の統合と実践（1コマ）を担当

している。卒業論文Ⅱにおいては、4名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを指導した。また、歯学部口腔保健衛生学専攻の講義を担当した。

2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論 A1・B、小児家族発達看護学演習 A1・B、共通科目である家族看護学特論、看護学研究法特論の他、精神看護学特論 A-1 の講義を担当した。

(4) 臨床活動および学外活動

- 1 型糖尿病の患者・家族会 (東京わかまつ会) の運営に携わっている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Nomura S, Okamitsu M, Yago S, Nagata N, Katsumoto S, Arai K, Kubota M, Tachibana Y, Omori T, Miyao M. Characteristics of Parents and Their Infants with Autistic Behaviors: Parent-Infant Interaction, Parental Depression, and Parenting Stress Journal of Medical and Dental Sciences. 2020; 67; 31-39
2. 矢郷 哲志, 永吉 美智枝, 瀧田 浩平, 小山 健太, 江口 八千代, 植田 洋子, 三平 元, 大藤 佳子. 家族等が利用できる長期滞在施設の認知度および利用に関する実態調査 小児保健研究. 2020.01; 79(1); 74-82

[総説]

1. 岡光基子. 子育てに寄り添う: 気づきから支援までの実践に学ぶ 乳幼児精神保健と看護 親子のアセスメントと関係性支援 日本フォレンジック看護学会誌. 2020.03; 6(2); 115-118
2. 今井 千裕, 飛知和 尚美, 中田 ありさ, 瀧本 秀美, 岡光 基子, 樽井 依織, 青山 友子, 矢郷 哲志, 不殿 絢子, 宮坂 尚幸, 佐藤 憲子. 妊婦のたんぱく質エネルギー比率と新生児 DNA メチル化-疾患関連メチル化部位の解析 日本栄養・食糧学会大会講演要旨集. 2020.04; 74 回; 303
3. 岡光基子. 【多層域・多領域の乳幼児臨床に向けて—各領域におけるポピュレーション・アプローチからハイリスク・アプローチまで—】 家族看護の実践における乳幼児精神保健 乳幼児医学・心理学研究. 2020.06; 29(1); 21-27

[講演・口頭発表等]

1. Tomoko Aoyama, Satoshi Yago, Motoko Okamitsu, Atsuko Taki, Tomohiro Morio, Iori Tarui, Kayo Shitara, Chihiro Chihiro, Ayako Fudono, Noriko Sato, Naoyuki Miyasaka, Hidemi Takimoto. Handgrip Strength in One-Month-Old Infants: How Strong Are They?. the 2020 Annual Congress of the Perinatal Society of Australia and New Zealand 2020.04
2. 今井千裕, 飛知和尚美, 中田ありさ, 瀧本秀美, 岡光基子, 樽井依織, 青山友子, 矢郷哲志, 不殿絢子, 宮坂尚幸, 佐藤憲子. 妊婦のたんぱく質エネルギー比率と新生児 DNA メチル化—疾患関連メチル化部位の解析. 第 74 回日本栄養・食糧学会大会 2020.05.15 仙台国際センター
3. 勝本祥子, 岡光基子, 矢郷哲志. 悪性骨腫瘍のサバイバーのがんの経験に関する質的研究の文献検討. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12

[社会貢献活動]

1. 乳幼児保健学会 理事 (岡光基子), 2012 年 04 月 01 日 - 現在
2. 日本乳幼児医学・心理学会 評議員・編集 (岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2016 年 04 月 01 日 - 2020 年 03 月 31 日
3. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査 (岡光基子), 東京わかまつ会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. お茶の水看護学研究会 会長・編集委員 (岡光基子), お茶の水看護学研究会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
5. 乳幼児保健学会 事務局 (矢郷哲志), 2016 年 04 月 01 日 - 現在

6. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ（矢郷哲志），2016 年 04 月 01 日 - 現在
7. 日本体育大学 非常勤講師（岡光基子），2016 年 04 月 01 日 - 現在
8. 日本乳幼児医学・心理学会 査読委員（岡光基子），日本乳幼児医学・心理学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
9. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」DD ユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」 講師（岡光基子），東京医科歯科大学, 2016 年 07 月 20 日 - 現在
10. JNCAST 講習会 講師（岡光基子），東京医科歯科大学，東京有明医療大学, 2017 年 08 月 26 日 - 現在
11. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師（岡光基子），小田原保健福祉事務所／柏市保健所, 2017 年 09 月 28 日 - 現在
12. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」DD ユニットファミリーサポート 保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師（矢郷哲志），2017 年 09 月 28 日 - 現在
13. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師（矢郷哲志），小田原保健福祉事務所／柏市保健所, 2017 年 09 月 28 日 - 現在
14. 東京有明医療大学 非常勤講師（矢郷哲志），2018 年 04 月 01 日 - 2021 年 03 月 31 日
15. 日本体育大学 特別講師（矢郷哲志），2018 年 04 月 01 日 - 現在
16. 東京医科歯科大学生活協同組合 理事（矢郷哲志），2018 年 05 月 - 2021 年 05 月
17. 乳幼児保健学会 評議員（矢郷哲志），2019 年 04 月 01 日 - 現在
18. お茶の水看護学雑誌 査読委員（矢郷哲志），お茶の水看護学研究会, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
19. JSCHN 人材養成研修 e-learning プログラム（小児看護実践基盤コース）作成協力（矢郷哲志），日本小児看護学会, 2019 年 05 月 - 2021 年 03 月
20. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」（小児看護実践基盤コース）作成および講師（岡光基子），日本小児看護学会, 2019 年 05 月 22 日 - 現在
21. 新型コロナ受診相談窓口による相談業務（勝本祥子），東京都福祉保健局, 2020 年 04 月 - 2020 年 05 月
22. 日本乳幼児医学・心理学会 理事、学会誌副編集委員長（岡光基子），日本乳幼児医学・心理学会, 2020 年 04 月 01 日 - 現在
23. 文京保健所業務継続のための応援派遣（岡光基子），2020 年 04 月 08 日 - 現在
24. 文京保健所業務継続のための応援派遣（矢郷哲志），2020 年 04 月 08 日 - 現在

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

教授 大久保 功子

講師 三隅 順子

大学院生

博士 5 年一貫課程

佐野	深雪
鈴木	由美子（休学中）
佐藤	千鶴
石田	徹
今村	美聡
戸田	あゆみ
間	潔如
平岩	千明（特別参加）
伏見	真由（特別参加）

非常勤講師

櫻井 亜古

（１） 分野概要

当該分野では、主に性と生殖に関する健康と権利にかかわる看護や助産についての研究教育を行っています。周産期ならびに、女性の生涯にわたる看護あるいは助産に関する研究者に必要とされるであろう能力を高めるために、EBM や NBM の視点をおりまぜながら、研究のトレンドを探り、研究方法の歴史的背景や哲学的立場を踏まえ、深く掘り下げた研究クリティークを行っています。

学部教育では、看護師国家試験受験資格に必須とされている、母性看護学の講義、演習、実習、卒業論文を担当しています。

（２） 研究活動

現象学、GT、エスノグラフィー、疫学、演繹的帰納的アプローチ、ナラティブ研究法など、研究課題に則して適切に研究方法を選択して取り組むべく、日夜努力しています。単なる手順として研究法を理解するのではなく、その歴史的背景や哲学から理解することを目指しています。女性と性的マイノリティの人のための看護実践、助産学、看護学、人間科学における知を開発するための研究にも取り組んでいます。かといって、量的研究を行わないわけではなく、疫学的手法や共分散構造分析を用いた尺度開発も行っています。

代替医療、精神分析学、対人関係論、カウンセリング理論、アタッチメント理論、絆理論、看護理論、助産理論についても学び続けています。大久保は主に親子の精神的健康、三隅は DV に関心を持って研究と実践に取り組んでいます。

現在、ファミリーパートナーシップモデルの基となっている、Kelly 心理学の抄読会を予定しています。これらの活動に関しては、今後、オープンにしていく可能性があります。興味のある方は連絡をいただければと思います。

昔在籍していた櫻井さんが、論文執筆のために戻ってきてくださいました。今まで取りためたデータを形にすることで、社会に少しでも貢献出来たらよいと考えております。

(3) 教育活動

昨年度は勝又里織さんが学位を取得することができ、博士後期課程を修了しましたので、2020 年度 4 月の時点で、大学院には博士 5 年一貫課程の 7 名の学生が在籍しています。精神保健看護学分野やがんエンドオブライフ看護学分野の学生さんも、時々ゼミに参加されています。

新型コロナ対策の影響で、Zoom でゼミや LINE を結んでのゼミを行っています。

教育活動として、自分の研究課題に取り組むだけではなく、様々な研究のプロセスを学びあい、お互いに切磋琢磨する環境づくりをこころがけています。現在は Mix Methods, GT, Narrative Method, Ethnomethodology と、実に多様な研究法で学生は研究に取り組んでいます。副指導担当となっている他領域の学生にも、当該分野のゼミに参加して発表し、議論していただいています。

(4) 教育方針

自分の心で感じ、頭で考え、書くことができる、これからの研究者を育てることをモットーとしています。

(5) 臨床活動および学外活動

大久保は主に質的研究、三隅は DV 被害者支援関係で全国行脚をしていました。

(6) 研究業績

[総説]

1. 大久保功子. 質的研究初心者のためのインタビュー入門 お茶の水看護学雑誌. 2020.03; 14(1・2); 32-38
2. 三隅 順子. SANE の養成に携わって 日本フォレンジック看護学会誌. 2020.03; 6(2); 61-62

[講演・口頭発表等]

1. Etsuko Shiono, Noriko Okubo. The Effectiveness of a Post-Delivery Parental Crisis Prevention Workshop for Health Caregivers in Mother and Child Health Care. The 6th International nursing research conference 2020.02.29 Osaka
2. Etsuko Shiono, Noriko Okubo. The Effectiveness of a Post-Delivery Parental Crisis Prevention Workshop for Health Caregivers in Mother and Child Health Care. The 6th International nursing research conference 2020.02.29 Osaka

[Works]

1. 【視聴覚教材】性暴力被害者ワンストップ支援センターでの対応について, 教材, 性暴力被害者ワンストップ支援センターの新規支援者研修, 2017 年 05 月 - 現在

[その他業績]

1. NICU における熟練看護師の技の解明に基づく教育プログラムの開発, 2020 年 04 月
大久保功子 (研究代表者) 文部省科学研究費助成金 (基盤研究 C) 2018-2021 年
2. 精神障害を抱える妊産婦のケアで、助産師が直面する困難と対処
大久保功子 (研究分担者) : 科学研究費補助金 (基盤研究 C)

[社会貢献活動]

1. 日本看護科学学会誌査読委員英文誌, 2003 年 10 月 01 日 - 2020 年 12 月 31 日
2. SANE 研修 講義&ワーク: 性暴力被害女性への看護の実際, 女性の安全と健康のための支援教育センター, SANE 研修, 東京有明医療大学, 2004 年 04 月 01 日 - 現在
3. 乳幼児保健学会理事, 2008 年 05 月 01 日 - 現在
4. 御茶ノ水看護学研究会理事, 2010 年 10 月 01 日 - 現在
5. 子どもの健康と環境に関する全国調査倫理問題検討委員, 国立環境研究所, エコチル調査, 2011 年 04 月 01 日 - 現在
6. SAFER 研修 ミニレクチャー&ワーク, NPO 法人 レジリエンス, 2012 年 12 月 12 日 - 現在
7. SARC 東京 支援員研修講座, SARC 東京, 江戸川グリーンパレス, 2018 年 05 月 19 日 - 現在
8. 宮城登米産業高 性的自己決定権と Consent, みやぎジョネット, 宮城県内学校性教育, 宮城県登米総合産業高等学校/福祉科, 2018 年 07 月 19 日 - 現在
9. ワンストップ支援センター和歌山 mine ボランティア養成研修, NPO 法人 レジリエンス, 和歌山性暴力被害者支援研修 2018, 和歌山県 和歌山ビッグ愛: 〒640-8319 和歌山市手平 2 丁目 1-2 , 2018 年 08 月 18 日 - 現在
10. 日本看護科学学会代議員, 2019 年 06 月 30 日 - 現在
11. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020 年 04 月 08 日 - 現在

在宅ケア看護学

Home Care Nursing

教授	福井 小紀子 (2020 年 7 月から)
講師	内堀 真弓
院生	柿沼 直美
	星 智子
	相島 美彌
	坂野 朋未
	佐川美枝子
	今 亜矢
	野中さゆり
研究生	Y U T I A N L A I
	宮川 久恵

(1) 分野概要

当分野は、これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

このために、分野の教員や大学院生を含む全構成員が力を合わせて、全世代の人々が安心・安全に過ごせる「地域包括ケアシステム」や「在宅ケアシステム」の構築に向けて、看護学研究者が果たせる役割の大きさは甚大であると考えています。

(2) 研究活動

分野名である「在宅ケア看護学」が表すように、当分野では「地域包括ケア」と「在宅看護」をキーワードとした幅広いテーマについて多彩な研究を精力的に進めています。

まず一つ目は、ケアの受け手に直接的に役立つテーマである、入退院支援、エンドオブライフケア、在宅緩和ケア、施設看取り、認知症ケア、レスパイトケア、治療後の在宅療養者のフレイル予防などの「個別ケアの発展」に貢献する研究。

二つ目は、ケア提供者自身にとって有用であり、ひいてはケアの受け手に間接的に役立つテーマとなる、医療介護連携、産官学民連携、在宅ケア管理、離職防止、スタッフ教育などの「ケア提供者、組織、地域のシステムの発展」につながる研究。

三つ目は、人口減少社会を見据えて、我々ケア提供者の人材の最大活用と限られた資源におけるケアの生産性向上を目指し、パーソナルヘルスレコードの活用やデータヘルスの推進が進むなか、医療介護レセプト情報、介護施設等で集積されているケア記録、在宅ケア領域で支払い請求上集積されている在宅ケア記録等の解析による看護の見える化や効果のエビデンス化に寄与するビッグデータを扱う研究。

四つ目は、科学技術・技術革新がヘルスケア業界に急速に導入される時代的背景のなか、看護の視点で行う、見守り機器や介護ロボットの導入・応用に繋がる研究、センシング機器等を活用した連続観察による効果的なケア追及を行うための看工連携研究やトランスレーショナルリサーチ。

以上のように、当研究室では、超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、社会的ニーズに看護が応えることを目指して、幅広い研究テーマを展開・追及していきます。

(3) 教育活動

学部教育

2年生の在宅看護学Ⅰでは、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について学びます。

3年生の在宅看護学Ⅱ、在宅看護学演習、在宅看護学実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びます。演習では具体的な訪問看護技術、および看護の展開を学びます。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めていきます。

4年生の総合実習および卒業研究では、4年間で学習した知識と技術を統合し、複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対し、主体的に看護実践できる力をつけていきます。また、看護の統合と実践実習で学習した多職種との連携、医療安全、管理的視点を踏まえ、在宅医療介護チームの中での看護師の役割を実践の中で学んでいきます。卒業研究では、実際の在宅療養者や地域住民、医療介護従事者からの調査データを用いて、これまで学習した知識や技術を俯瞰的に捉え、在宅療養者や地域住民、在宅医療介護従事者に役立つエビデンス構築を、体験を通して学びます。さらに看護研究の視点からも看護の理解を深め、将来、看護研究のリーダーを担う基礎力を身につけていきます。

大学院教育

在宅ケア看護学特論Ⅰでは、地域包括ケアシステムの構築の重要性と実際の理解を深め、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の役割について考察を進めていきます。

在宅ケア看護学演習Ⅰでは、文献レビューを通して、超高齢人口減少社会における在宅看護・地域包括ケアシステムの在り方、及び在宅療養における科学技術・ビッグデータの活用に関する研究動向を捉えることを目的に行っています。

在宅ケア看護学特論Ⅱでは、在宅ケア看護学に関連する社会情勢の変化、諸制度および地域社会における看護提供の仕組み等を国内外の研究論文および実践の知見当により探求するとともに、在宅ケア看護の専門的看護実践の研究を計画し、学位論文作成につながる研究に取り組み、自立して研究できる能力を習得していきます。

(4) 教育方針

これから急速に進む超高齢・人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

(5) 臨床活動および学外活動

1. 介護及び医療レセプト分析による疾患並びに状態別の最適訪問看護提

供パッケージの提案と自治体担当者向けの訪問看護実態可視化ツールの開発（厚生労働省：2020年04月 - 2022年03月）

2. 科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発（文部科学省/日本学術振興会：2018年 - 2020年）

3. 工学技術を活用した環太平洋アジア地域における認知症家族介護者支援モデル開発（文部科学省/日本学術振興会）

4. 科学技術と実践情報を統合した高齢者の早期問題予測ツールと最適ケアモデルの開発（文部科学省/日本学術振興会）

5. 訪問看護と介護の連携促進のための慢性疾患高齢者向け早期生活マネジメント指針の開発（文部科学省/日本学術振興会）

6. 工学技術とケア情報を統合した在宅高齢者と家族と医療介護職向け看取り支援 IoT 開発（文部科学省/日本学術振興会）
7. 大阪府のレセプト特定検診一体型ビッグデータに基づく効率的な特定保健指導運用の提案（文部科学省/日本学術振興会）

（６） 臨床上の特色

複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対する統合的な看護実践が本分野の臨床上の特色である。また、多職種との連携、社会制度を理解した上での調整、医療安全等、管理的視点を在宅医療介護チームの中で発揮することも看護師の役割であることも特色である。超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の４つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、在宅看護臨床として、臨床的・学術的に社会的ニーズに応えることも求められる。

（７） 研究業績

[原著]

1. Kotoku J, Oyama A, Kitazumi K, Toki H, Haga A, Yamamoto R, Shinzawa M, Yamakawa M, Fukui S, Yamamoto K, Moriyama T. Causal relations of health indices inferred statistically using the DirectLiNGAM algorithm from big data of Osaka prefecture health checkups. PloS one. 2020; 15(12); e0243229
2. Naoko Otsuki, Sakiko Fukui, Eiji Nakatani. Quality and cost-effectiveness analyses of home-visit nursing based on the frequency of nursing care visits and patients' quality of life: A pilot study. Geriatr Gerontol Int. 2020.01; 20(1); 36-41
3. Naoko Otsuki, Sakiko Fukui, Yukihiro Sakaguchi. Measuring the Benefits of Respite Care use by Children with Disabilities and Their Families. J Pediatr Nurs. 2020.02; 53; e14-e20
4. 池田 良輔子, 福井 小紀子. 終末期高齢者を自宅で看取った家族への訪問看護師の支援 日本在宅看護学会誌. 2020.03; 8(2); 22-31
5. Etsuko Ohama, Sakiko Fukui. Factors Associated With Life Discussions Among Friends and Family in Japanese Depopulated Areas. J Hosp Palliat Nurs. 2020.04; 22(2); 159-165
6. 藤田 淳子. 福井小紀子. 池崎 澄江. 辻村 真由子. 在宅の介護関連職における医療職との連携困難感尺度の開発 日本公衛誌 . 2020.11; 67(11); 819-827

[書籍等出版物]

1. 内堀 真弓 著, 山崎 智子, 佐々木 吉子 編. はじめての看取りケア—病棟・在宅・救急外来・災害現場のケアを支援—. 2020.06
2. 山崎智子, 佐々木吉子, 遠藤貴子 他. はじめての看取りケア—病棟・在宅・救急外来・災害現場のケアと支援—. メヂカルフレンド社, 2020.06 (ISBN : 9784839216610)

[総説]

1. 福井小紀子. 施設看取りが推進される政策動向 訪問看護と介護. 2020; 25(1); 12-19

[講演・口頭発表等]

1. 福井小紀子. 「ヘルスケアシステム論Ⅱ」 . 赤十字看護管理者研修Ⅱ 日本看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル 2020

2. 野中さゆり, 遠藤 貴子, 内堀 真弓, 本田 彰子, 山崎 智子. 訪問看護師に求められる実践能力に関する文献検討. 第 24 回日本看護研究学会東海地方会学術集会 2020.03 豊橋市
3. 福井小紀子. 医療現場への IoT や AI の具体的活用—機器による患者の連続観察・看護判断・看護介入との関連性の検討による療養者へのより良いケア提供を目指して—. がん看護実践研究セミナー 2020.03.19
4. 福井小紀子. 「個別事例における ACP の考え方やコミュニケーションスキルの使い方」. 伊勢地区医師会 2020.06.03
5. 福井小紀子. 地域包括ケア時代の地域連携と看護職の役割. 静岡県看護協会 令和元年度看護職員管理者の相互研修プログラム 2020.10.28
6. 福井小紀子. ヘルスケアシステム論Ⅱ 社会保障制度の現状と課題. 静岡県看護協会 令和 2 年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル 2020.10.30
7. 福井小紀子. 地域包括ケアシステムにおける多職種をつなぐ看護の力. 長野県看護協会看護師職能研修会 2020.11.13
8. 高橋伸平、福井小紀子「他」. センシング機器を用いた観察研究 3 : 高齢者施設における便秘と睡眠の関連性. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12
9. 福井小紀子. 第 30 群 ケアイノベーション 座長. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13
10. 藤川あや、福井小紀子「他」. 住民の幸福度・満足度の実態把握とその要因 (第 1 報): 在宅医療・介護連携を評価するアウトカムの検討. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13
11. 岩原由香、福井小紀子「他」. 住民の幸福度・満足度の実態把握とその要因 (第 2 報): 住民による自由記述のテキストマイニング分析. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13
12. 藤田淳子、福井小紀子「他」. 住民の幸福度・満足度の実態把握とその要因 (第 3 報): 医療に対する安心感と関連要因. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13
13. 石川孝子、福井小紀子「他」. 住民の幸福度・満足度の実態把握とその要因 (第 4 報): 終末期の意向についての話し合いをすることの関連要因. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13

[社会貢献活動]

1. 日本難病看護学会誌 編集委員長, 2008 年 04 月 01 日 - 現在
2. 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読委員, 日本糖尿病教育・看護学会, 2016 年 04 月 - 2020 年 08 月
3. 東京大学 非常勤講師, 2016 年 04 月 01 日 - 2022 年 03 月 31 日
4. 放送大学 非常勤講師, 2016 年 04 月 01 日 - 2022 年 03 月 31 日
5. お茶の水会看護同窓会 副会長, お茶の水会看護同窓会, 2018 年 05 月 19 日 - 現在
6. 浜松医科大学 非常勤講師, 2020 年 04 月 01 日 - 2022 年 03 月 31 日
7. 大阪大学 招へい教授, 2020 年 04 月 01 日 - 2022 年 03 月 31 日
8. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020 年 04 月 08 日 - 現在

がんエンドオブライフケア看護学

End-of-Life Care and Oncology Nursing

准教授 山崎 智子

院生 三部 ひさこ
田村 里佳
伏見 真由
柳谷 利恵
牧野 倫子
西塚 祐樹
片岡 綾華
佐藤 由紀子
劉 菲

(1) 分野概要

本分野では、がん患者を中心に、診断・治療初期、外来治療継続の時期、人生の終末の時期にある患者や家族の意思決定、症状緩和や苦悩についての体験を明らかにすること、さらには残された遺族の体験や困難を明らかにし、看護支援の必要性や支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元によるがんエンドオブライフケア看護学の構築を目指している。

(2) 研究活動

本分野では、がんの罹患から終末期に至るまでの様々な病期にある患者・家族の苦悩を理解し、自身の望む生き方がかなえられる意思決定支援や患者・家族の力を高める看護支援や遺される人々への苦悩に寄り添い、生き抜く力を支えるケアについても探求している。

1. がん再発期にある患者の希望を支える看護支援の開発
2. 壮年期のがん患者とその子供を支える看護支援
3. がんの再発を繰り返す患者のレジリエンスを支える看護支援の開発
4. 治癒の望めない進行がん患者と家族の終末期を支える看護支援
5. がん患者との死別を体験した遺族へのグリーフケア
6. 患者と死別した看護師のグリーフを支援するプログラムの開発

(3) 教育活動

学部教育においては、4年生の緩和ケア看護学の講義で、病院での医療・看護のみならず、人々が暮らしている自宅を療養の場としてケアを展開することへの理解を深める。そのために、在宅ホスピスを中心に、終末期にある人々と家族の特徴を理解し、QOLの向上を目指した看護について、自宅での症状コントロールや療養の体制作り、看取りおよびその後の家族に対する看護の理解を目指している。

また遺族へのグリーフケアや看護師のグリーフや共感疲労についても理解を深め看護師自身のセルフケアにつ

いても教授する。

大学院教育では、がん看護の専門性の追求と発展の教育研究に加え、高度実践者としてのがん専門看護師（CNS）教育を行っている。

5年一貫制博士課程の利点をいかして、5年間の中で自身の追求したい研究テーマに合わせて、柔軟に実習を組み込みながら研究を進めることができるようにしている。

（４）教育方針

常に一人の人として、よく生き、よく死ぬことについて考えを深め、死生観を醸成する。それらを基盤にして、人生の危機にある他者を援助する看護について考えることが出来る実践者、研究者を育成する。

さらにコミュニティの中においても、病気を持っていたり持っていなくても、人としてよく生き、よく死のうとする人々とともに考え、生と死について考えを深めるための手助けをする役割を果たす人になることを目指す。

（５）臨床活動および学外活動

がんを罹患した人々が、自身の気持ちや体験を発信するコミュニティに参加し、体験を書き起こし記録するなどの活動を支援している。

地域の中でがんを罹患した人々、自宅で終末期を過ごす人々を支える訪問看護の現場において看護活動を行っている。

コミュニティにおいて、がんを罹患した患者・家族・遺族、そのような体験はないが自身の死やがんについて考える人々が集う、「がん哲学外来・聖橋プラムカフェ」を大学院生が主催し、分かち合いの場の提供と支援を行っている。

家族に限らず、愛する対象を亡くし遺された人々を対象として、GCC 認定グリーフカウンセラーとしてカウンセリングを行っている。

（６）臨床上の特色

実習や研究を行う場は、がんを罹患した患者・家族の存在するところ、どこにおいても看護の役割について考える場となりうる。

病院施設、在宅療養の場のみならず、コミュニティにおいても、患者・家族がいかに自分らしく生きるか、そのためにどのような人的・物的資源を活用して支援をしていけるかを考えていく。

（７）研究業績

[書籍等出版物]

1. 山崎智子、佐々木吉子. はじめての看取りケア 病棟・在宅・救急外来・災害現場のケアと支援. メディカルフレンド社, 2020.06 (ISBN : 4839216614)

[講演・口頭発表等]

1. 野中さゆり、遠藤貴子、内堀真弓、山崎智子、本田彰子. 訪問看護師に求められる実践能力に関する文献検討. 日本看護研究学会東海地方会学術集会 2020.03.20 愛知県豊橋市花田

[社会貢献活動]

1. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 2020年04月08日 - 現在

国際看護開発学

International Nursing Development

教授	近藤 暁子
非常勤講師	Ann L. Eckhardt
非常勤講師	Mabel C. Ezeonwu
非常勤講師	Vico Chiang
非常勤講師	新津 晃右
非常勤講師	駒形 朋子
非常勤講師	森山 潤
大学院生	栗原 淳子（2017 年 10 月から 2020 年 4 月まで）
大学院生	Abuliezi Renaguli
大学院生	Hua Jing
大学院生	Quian Huilin
大学院生	Wang Congcong
研究生	Piao Meihui
研究生	Ganchuluun Sambuu
研究生	Wu Tong
研究生	Ying Zhexi
研究生	Zeng Wanying

（１） 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主として大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

（２） 研究活動

主に成人～高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探索している。研究テーマの１つは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行った。その結果日本人の方が有意にコントロール感が低かったが、日本人もコントロール感と健康関連 QOL の相関が認められた。そこで、次の研究として、大学生・大学院生を対象としてコントロール感と健康行動の関連について、米国ワシントン大学の学生との比較研究を実施している。今年は新型コロナウイルスの影響により、「新型コロナウイルス流行下での健康行動とコントロール感の関係」に変更して調査を実施した。今後論文化する予定である。

（３） 教育活動

１）学部教育

学部４年生を対象として、「国際保健看護学」および「総合実習Ⅰ」を担当している。国際保健看護学では、単に諸外国の医療と看護の現状を理解するに留まらず、各国・地域の歴史・社会システムの変遷と関連から、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養うことを重視している。遠隔講義システムを利用し香

港理工大学 Vico Chiang 准教授および米国イリノイウェスレヤン大学 Ann Eckhardt 講師の講義を英語で実施している。「総合実習 I」では 4 年間の学びを統合し、複数受け持ちや外国人医療、医療チームでの協力、について実践の中から学ぶ。学部 3 年生に対しては「卒業論文 I」を担当し、研究手法の基本や論文のクリティックを行っている。

さらに学部 2 4 年生を対象とした「実践看護英語」を自由選択科目として開講している。一部はワシントン大学の学生とオンラインを使用して共通講義とし、ネイティブスピーカーの講師や留学生とともに異文化看護について英語で学ぶ。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行っている。

また「卒業論文 II」では留学生を対象とした日本での病院受診時の体験調査、病院の看護師を対象とした外国人患者対応に必要な研修内容、看護学生の英語学習のニーズについて調査した。2017 年に調査した留学生を対象とした日本での病院受診時の体験は 2021 年に英語誌に発表した。また、2015 年のネパールでの地震後災害救援活動にあたった看護師の方 12 名にインタビューを行い、看護師の活動や今後の課題についてまとめた学生は 2017 年世界看護科学学会で口演し、2019 年に英文誌に掲載した。

2) 大学院教育

共通科目では「国際比較研究」と「国際看護研究方法論」を担当している。「看護研究方法論」は主に国際比較研究の方法について講義や論文のクリティックを行っている。「国際看護研究方法論」は、英語によるプレゼンの練習、研究計画書の作成方法を講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。「国際看護開発学特論 A」では文献レビューの方法を学んでいる。国際看護開発学特論 A で学んだ学生はシステムティックレビュー論文を 2020 年に International Nursing Review に発表した。

(4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を発揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人期から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

(5) 臨床活動および学外活動

2021 年 9 月 4 日に日本国際看護学会第 5 回学術集会を Web 上で実施予定です。ぜひご参加ください。

<https://kokusaikango2021.wixsite.com/jsin>

(6) 研究業績

[原著]

1. Shiori MIURA, Akiko KONDO and Yuki TAKAMURA. Practices and challenges of disaster nursing for Japanese nurses sent to Nepal following the 2015 earthquake Health Emergency and Disaster Nursing. 2020.04; 7(1); 46-54
2. 上林千佳, 近藤暁子, 小泉麻美, 二見茜. 大学病院と総合病院における外国人患者対応研修に関する看護師のニーズおよび参加意欲 日本国際保健医療学会誌. 2020.04; 35(1); 27-38
3. 雨澤寿美子, 杉浦由紀子, 長倉芳徳, 山下直美, 近藤暁子. 血管撮影室で自己心拍再開後の昏睡患者への体温管理療法 (TTM) が導入されにくい要因—医師・看護師の意識調査より— 日本看護学会論文集第 50 回 (2019 年度) 看護管理. 2020.04; 115-118

[総説]

1. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Huilin Qian. The experiences of foreign - educated nurses in Japan: a systematic review International Nursing Review. 2020.11; 1-9

[講演・口頭発表等]

1. Mayuka Isoda, Akiko Kondo. Nursing students' motivation and needs for studying English in a university in Japan . The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.28 Osaka
2. Akiko Kondo, Chika Kambayashi, Mami Koizumi, Akane Futami . Factors reduce nurses' difficulty in taking care of foreign patients in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29 Osaka
3. Junko Kurihara, Akiko Kondo. Relationship between Nurses' Personality and Attitude Toward Patients with Schizophrenia. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.29 Osaka
4. Kosuke Niitsu & Akiko Kondo. Collaborative Online International Learning (COIL): An Innovative Pedagogy to Build Cross-Cultural Understanding. Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020 2020.07.12 Japan
5. Akiko Kondo, Tomomi Oki, Amane Otaki, Renaguli Abuliezi, Ann L. Eckhardt. The association between resilience and perceived control of Japanese patients after acute coronary syndrome . Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020 2020.07.12 Japan
6. 近藤暁子. 看護ハナマル先生模擬授業. 日本看護学教育学会第 30 回学術集会 2020.09 ZOOM
7. Hua Jing, Kondo Akiko, Piao Meihui. Job Satisfaction among Foreign-educated Nurses: a systematic review. 4th Annual academic conference of Japan Society for International Nursing 2020.11.22 Japan
8. 近藤暁子, 上林千佳, 小泉麻美, 二見茜. 大学病院と総合病院における看護師の外国人患者対応の困難感、研修に関するニーズの経年変化-2018 年度と 2019 年度の比較. 日本国際看護学会第 4 回学術集会 2020.11.22 オンライン
9. 大木友美、近藤暁子、大滝 周、Renaguli Abuliezi, Ann L.Eckhardt, 佐々木仁美, 鷲山聡子, 下司映一. 急性冠症候群罹患後のレジリエンスと健康関連生活の質の男女比較. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 オンライン
10. 栗原淳子, 近藤暁子. 一般病床看護師の精神疾患患者に対する印象に関する研究. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 オンライン

[受賞]

1. Best Poster Prize, Transcultural Nursing Society, 2020 年 07 月

[社会貢献活動]

1. エベレストインターナショナルスクールでのボランティア活動（駒形朋子）, 2019 年 05 月 01 日 - 2020 年 03 月 31 日

高齢社会看護システム管理学分野

Department of Gerontological Nursing and Healthcare Systems Management

教授 緒方 泰子
准教授 佐々木 美樹
助教 湯本 淑江（～2020.3.31 育児休業）
助教 廣山 奈津子（2020.4.1～）

助教 菅原 久純（2019.12.1～2020.3.31）
助教 藤波 景子（2019.11.16～2020.3.31 産休代替）

特任講師 前田 留美（看護キャリアパスウェイ教育研究センター）
特任助教 伊藤沙紀子（看護キャリアパスウェイ教育研究センター）
（2019.4.21～2020.4.30 産前産後及び育児休業）
特任助教 藤波 景子（看護キャリアパスウェイ教育研究センター）
（2020.4.1～）
特任研究員 丹野 春香（看護キャリアパスウェイ教育研究センター）

大学院生 博士課程（5年一貫制）
佐々木美樹（2020.3.31 修了）
森 陽子
山縣 千尋
西川 裕理
長井 聡子
岩崎 弓子
高田 聖果
木田 亮平
伊藤 絢乃
笹井 佳奈

大学院生 博士課程（後期）
石井 典子

研究生
山口さおり

事務補佐員 神内 祐子
事務補佐員 尾張 景子（看護キャリアパスウェイ教育研究センター）

（1）分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法（個へのアプローチ）に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか（社会システムへのアプローチ）といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応じていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護システム管理学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指し

ています。

(2) 研究活動

1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
2. 看護ケアの質に関する研究
3. 看護管理学に関する研究
4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究 など

(3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護システム管理学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

(4) 研究業績

[原著]

1. 武村雪絵, 渡邊龍之介, 木田亮平, 菅野由貴子. 交代制勤務を行う看護職員の勤務状況と就業継続を可能とする条件: インターネット調査 日本看護管理学会誌. 2020;
2. 甲斐貴雅, 市川奈央子, 武村雪絵, 國江慶子, 木田亮平, 松田美智代, 竹下保稔. 指導を守らない患者に対する怒りに起因した看護職の「思考の未統合感」と職場で受けた支援との関連 日本看護科学学会誌. 2020;
3. Inoue M, Kunie K, Takemura Y, Ichikawa N, Kida R. The influence of learning circumstances and on-the-job opportunities for professional growth on perceived person-environment fit among hospital nurses: A longitudinal study Journal of Nursing Management. 2020;
4. Nishikawa Y, Hiroshima N, Fukahori H, Ota E, Mizuno A, Miyashita M, Yoneoka D, Kwong JSW. Advance care planning for adults with heart failure Cochrane Database of Systematic Reviews. 2020.02;
5. Sasaki Miki, Ogata Yasuko, Morioka Noriko, Yumoto Yoshie, Yonekura Yuki. Development and validation of Nurse Managers' Empowering Behavioral Scale for staff nurses NURSING OPEN. 2020.03; 7 (2); 512-522
6. 岩崎弓子, 小玉淑巨, 西岡真美, 加藤里沙子, 深堀浩樹. 訪問看護経験5年以下の訪問看護師が経験した利用者の社会保障制度の活用を支援するうえでの問題 日本在宅ケア学会誌. 2020.03; 23(2); 55-62
7. 森 陽子, 深堀 浩樹. 訪問看護事業所による就業時の教育的支援への臨床経験を持つ新人訪問看護師の認識 日本看護評価学会誌. 2020.08; 10(1); 31-39
8. 石井馨子, 武村雪絵, 市川奈央子, 國江慶子, 木田亮平. 日本語版組織学習サブプロセス測定尺度の信頼性・妥当性の検証 日本看護管理学会誌. 2020.08; 24(1); 63-71
9. 佐野 唯, 篠原 美代, 桃原 英里, 陳 菜穂, 前田 留美. 小児 HLA 半合致造血細胞移植時のノン・ドナーの体験 小児がん看護. 2020.09; 15(1); 47-56
10. Sasaki M, Ogata Y, Morioka N, Yonekura Y, Yumoto Y, Kei Matsuura, Shinobu Nomura, Robert C. Liden. Reliability and validity of the Multidimensional Measure of Leader-Member Exchange Japanese version for staff nurses Journal of Nursing Management. 2020.10; 28(7);

11. Kida R, Togari T, Yumoto Y, Ogata Y. The association between workplace social capital and authentic leadership, structural empowerment, and forms of communication as antecedent factors in hospital nurses: a cross-sectional multilevel approach Journal of Nursing Management. 2020.10;

[総説]

1. 山縣 千尋, 西川 裕理. 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン 30 PRISMA-ScR スコーピングレビューのための PRISMA 拡張版 (PRISMA-ScR) チェックリストと解説 看護研究. 2020.04; 53(2); 100-101
2. 坂口 美佐, 後 信, 伊藤 絢乃. 「介護事故情報収集システム (仮称)」の収集フォーマットを用いた事故情報収集の試行 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学政策研究事業 在宅・介護施設等における医療的ケアに関連する事故予防のための研究 (H30-長寿-一般-004) 分担研究報告書. 2020.05;
3. 村上 寿子, 皆吉 泰知, 田村 貴子, 廣山 奈津子, 深堀 浩樹. HCU における患者が不快に感じる「音」の内容調査 共済医報. 2020.10; 69(Suppl.); 59
4. 白川 翔, 菅野 貴仁, 矢口 秀穂, 塚田 真由美, 廣山 奈津子, 深堀 浩樹. 術前患者の不安軽減に関する質的研究を活用した教育的介入の影響 共済医報. 2020.10; 69(Suppl.); 60
5. 湯本淑江, 緒方泰子. 認知症終末期における苦痛症状マネジメントの動向と尺度の開発経過 地域ケアリング. 2020.10; 22(11); 64-67
6. 前田 留美, 徳山 薫. 「学習目標の明確化」は, 新人看護師と教育担当者に何をもたらしたのか 効果的で・効率よく・魅力ある部署別研修を目指して 看護管理. 2020.12; 30(12); 1094-1098

[講演・口頭発表等]

1. Sato K, Kimura M, Okuma K. Educational needs of nurses and nursing students in preventing patient and family violence: text mining of free descriptions of a web survey. the 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.28
2. Kunie K, Sasaki M, Kida R, Horigome Y, Saiki M, Yonekura Y, Inoue M, Ichikawa N, Takemura Y. Recruiting nurses with specific certification and nurses beyond retirement age: A survey in the medical care and elderly care facilities in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.28 Osaka
3. Horigome Y, Kunie K, Kida R, Sasaki M, Takemura Y. Attributes of nursing personnel desired by nursing directors in Japan: Content analysis of open-ended questionnaires. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.28 Osaka
4. 前田留美, 内野めぐみ, 田中公二, 崔 烘碩. ロービジョン患者ケアを行う看護師を対象としたバーチャルリアリティ教材開発のための文献検討. 第1回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会 2020.06.06 オンライン開催
5. 寺島 遥香, 笹井 佳奈, 高田 聖果, 藤波 景子, 湯本 淑江, 緒方 泰子. 人生最終段階におけるケア(看取り)に対するグループホーム職員の創意工夫・困難感. 第10回日本看護評価学会学術集会 2020.08 Web 開催
6. 香嶋 成美, 伊藤 絢乃, 佐々木 美樹, 上原 佳代子, 内山 亜紀子, 湯本 淑江, 緒方 泰子. 認知症患者へのケアに関する研修を通じた病院看護師の意識・行動の変化. 第10回日本看護評価学会学術集会 2020.08.09
7. 緒方泰子. 看護マネジャーは、なぜ孤独なのか? 「経験×リフレクション×コミュニティ」の可能性 看護マネジメントにおける「経験×リフレクション×コミュニティ」の可能性を考える. 第10回日本看護評価学会学術集会 2020.08.09 東京 (オンライン開催)
8. 木田亮平, 武村雪絵. 看護職員の労働時間・勤務環境改善に向けた医療施設の取り組み: 複数事例研究. 第24回日本看護管理学会学術集会 2020.08.28 オンライン
9. 井上真帆, 國江慶子, 武村雪絵, 木田亮平, 市川奈央子. 職場における学ぶ機会と成長に繋がる職務が個人—環境適合感に与える影響: 病院看護職を対象にした縦断研究. 第24回日本看護管理学会学術集会 2020.08.28 オンライン
10. 菅野由貴子, 渡邊龍之介, 木田亮平, 武村雪絵. 交代勤務に従事する看護職の労働の実態と交代制勤務継続意向およびその条件. 第24回日本看護管理学会学術集会 2020.08.28 オンライン

11. 前田留美, 徳山薫, 藤波景子, 緒方泰子. 「学習目標の明確化」は、新人看護師と教育担当者に何をもたらしたか—効果的で・効率良い・魅力的な部署別研修を目指して—. 第24回日本看護管理学会学術集会 2020.08.29 オンライン開催
12. 山崎 あかり, 佐々木 美樹, 藤波 景子, 伊藤 絢乃, 湯本 淑江, Edvardsson David, 緒方 泰子. The Person-centered Care Assessment Tool(P-CAT) 日本語版の信頼性・妥当性の検討. 日本医療・病院管理学会誌 2020.10.01
13. 伊藤 絢乃, 佐々木 美樹, 米倉 佑貴, 緒方 泰子. 組織公正性とスタッフ看護師の組織コミットメントとの関連; マルチレベル分析による縦断的検討. 第58回 日本医療・病院管理学会学術総会 2020.10.02
14. 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 佐藤 可奈, 藤波 景子, 湯本 淑江, 米倉 佑貴, 戸ヶ里 泰典. 看護師長のストレス対処能力 Sense of Coherence(SOC) と職場環境特性等との関連. 第58回日本医療・病院管理学会学術総会 2020.10.02 福岡 (オンライン)
15. 西川裕理. アドバンスケアプランニング介入研究のレビューからみるエビデンスの現状と文化的課題. 第24回日本心不全学会学術集会 2020.10.15
16. Sakiko Itoh, Hwee-Pink Tan, Kenichi Kudo, Yasuko Ogata. Impact of a sensing system on mental burden among nursing care providers in a nursing home. 11th Biennial Conference of the Asia-Pacific Association for Medical Informatics (APAMI 2020) 2020.11.22 HAMAMATSU

[Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD教材 日本語版監修(共著) 第1巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第2巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010年04月 - 現在

[その他業績]

1. Reviewer, 2020年01月
AIMA 2020 Annual Symposium (AMIA: American Medical Informatics Association) to be held in Chicago, United States from November 14 to 18, 2020.

[社会貢献活動]

1. 公立大学法人首都大学東京非常勤講師(緒方), 2007年04月01日 - 現在
2. 日本医療・病院管理学会編集委員会委員(緒方), 2007年05月29日 - 現在
3. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(湯本), 2014年03月 - 2020年12月31日
4. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (森陽子), 2014年03月 - 現在
5. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(藤波), 2014年03月14日 - 現在
6. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員(前田), 2015年04月01日 - 現在
7. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(佐々木美樹), 日本看護評価学会, 2016年03月 - 現在
8. 日本看護評価学会誌編集委員会委員(湯本), 2016年03月01日 - 現在
9. 日本看護評価学会 幹事 (森陽子), 2016年05月 - 現在
10. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員(前田), 2016年08月01日 - 現在
11. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員(前田), 2017年01月01日 - 現在
12. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師(緒方), 2018年04月01日 - 現在
13. 社)日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員(前田), 2018年11月01日 - 現在
14. 日本看護評価学会編集委員会委員(緒方), 2019年04月01日 - 現在
15. 日本看護管理学会評議員(緒方), 2019年04月01日 - 現在

16. 日本看護管理学会編集委員会委員（緒方）, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
17. 2019 年度東京都ナースプラザ研修「看護管理の基本」ファシリテーター（木田）, 東京都ナースプラザ, 東京都看護協会, 2019 年 08 月 08 日 - 2020 年 08 月 09 日
18. 2019 年度東京都ナースプラザ研修「看護管理の基本」ファシリテーター（木田）, 東京都ナースプラザ, 東京都看護協会, 2020 年 02 月 20 日 - 2020 年 02 月 21 日
19. 文京保健所業務継続のための応援派遣（廣山）, 2020 年 04 月 08 日 - 現在
20. 文京保健所業務継続のための応援派遣（藤波）, 2020 年 04 月 08 日 - 現在
21. 日本医療・病院管理学会 執行部幹事（佐々木美樹）, 日本医療・病院管理学会, 2020 年 05 月 - 現在
22. 2020 年度東京都ナースプラザ研修「看護管理の基本」ファシリテーター（木田）, 東京都ナースプラザ, 東京都看護協会, 2020 年 08 月 13 日 - 2020 年 08 月 14 日
23. 日本医療・病院管理学会評議員、理事（緒方）
24. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師（緒方）
25. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長（緒方）
26. 東京慈恵会医科大学非常勤講師（緒方）
27. 日本医療・病院管理学会事業委員会委員長（緒方）

災害・クリティカルケア看護学分野

Department of Disaster and Critical Care Nursing

教授 佐々木 吉子
准教授 今津 陽子（4月から）
准教授 駒形 朋子（3月まで）
特任研究員 田中 加苗（4月から）
技術補佐員 森 朱輝（8月から）
事務補佐員 岡田 久美子（6月から）

大学院生（博士5年一貫制）
小川 裕美子（3月まで）
濱舘 陽子（3月まで）
菅原 千賀子
宮前 繁（3月まで）
谷本 美保子
古屋（友藤） 裕美
小曾根 京子
鴨田 玲子
鐘ヶ江 紗里
藤村 麻衣子

（１） 分野概要

共同災害看護学専攻は、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学で共同運営する5年一貫制博士課程である。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる「災害看護グローバルリーダー」を養成することを目標としている。本学共同災害看護学専攻では、主に大規模災害発生時の防災・減災に向けた備えと発災急性期における看護の役割に着目して、学内はもとより地域住民、行政、医師会、企業等と連携した大災害への備えをテーマに研究活動を展開している。

当研究室は、2020年4月より、2020年4月より看護先進科学専攻 災害・クリティカルケア看護学分野を兼任することとなった。上記に加えて、災害、外傷や重篤疾患の急激な発症、高侵襲治療などにより、心身の危機的状況にある人々の看護に焦点を当てて、教育、研究を進めている。

（２） 研究活動

「共同災害看護学専攻」「災害・クリティカルケア看護学分野」では、首都圏直下型大地震やテロによる特殊災害に備えた防災・減災に着目し、発災に向けた平時からの備えと、発災急性期の災害支援活動における看護の役割の確立を目指し、研究に取り組んでいる。

現在、当研究室では、研究の一環として以下のような活動をしている。

①過去の大地震や特殊災害についての事例分析

②大災害時の防災・減災に向けた国内外の取り組み状況の把握（海外文献の抄読、国内・国際学会、海外での災害研修への参加）

- ③大災害発生時の自助・共助強化のための産官学連携に向けた情報収集や関係作り
- ④大学が属する2次医療圏内の災害拠点病院の取り組みについての情報収集（関連会議への参加、災害訓練参加など）
- ⑤大学が属する2次医療圏内の小規模医療施設における防災・減災の取り組み状況についての基礎調査
- ⑥災害時の医療系大学の学生ボランティアの活用とサポートに関するシステム構築に向けた基礎調査（他専攻との共同研究）
- ⑦大災害被災者へのメンタルケアに関する情報収集やスキルの学習
- ⑧特殊災害において医療者に必要な基礎知識・スキルの学習（緊急被ばく医療現職者研修への参加など）
- ⑨ COVID-19 の重症患者・家族ケアに関する研究

現在は基盤形成のための情報収集や基礎研究が中心であるが、今後、上記研究を発展させるとともに、院生が関心のある領域での研究に取り組めるようフィールド開拓するなど、関連機関との連携を図りながら研究室一丸となって取り組んでいる。

（３） 教育活動

「共同災害看護学専攻」は共同教育課程であり、学生はそれぞれの大学で開講される教科を相互履修し、各大学が強みとしている領域についての学習を深めている。

本学当専攻は、災害関連科目として「災害看護活動論Ⅰ」および「災害看護活動論演習Ⅰ」「災害法制度と政策」を担当している。災害看護活動論Ⅰでは、主に災害医療についての概論、災害急性期における看護実践や多職種との連携について学び、看護リーダーの役割について考察する。災害看護活動論演習Ⅰでは、国内外の災害医療・看護に関する文献講読とディスカッション、救護活動や遺族ケアなどのシミュレーション、災害専門施設の視察等を通して、実践力の向上や後方支援を含む看護リーダー能力の育成を図っている。

2020年度からは学部教育において、医学部保健衛生学科看護学専攻1年次後期の「看護の統合と実践Ⅰ」、4年次前期の「看護の統合と実践Ⅱ」、「看護の統合と実践実習」を担当している。看護の統合と実践Ⅰでは、看護専門職に必要とされる知識・技術・態度について学生自らが考え、看護観を育み、短期的、長期的な自身の学修およびキャリアプランについて検討することを目的とし様々な看護職からの講義やディスカッションを通して学んでいる。4年次の看護の統合と実践Ⅱでは、専門職に必要とされる知識・技術・態度について、3年次までの学修内容に看護倫理やマネジメントの視点を含めて熟考・統合し、看護観を発展させ、短期的、長期的な自身のキャリアプランを明確にし、さらに卒業後数年間のアクションプランを検討することを目的とし、看護倫理、看護マネジメント、医療制度・経済の専門家から講義を受けて知識を深めるとともに、組織において多職種と連携しながら看護が果たす役割について考察する。さらに、看護の統合と実践実習では、病院機能全体において看護職が果たす役割を総合的な体験・実践を通して理解することを目的とし、既習の知識や技術を基盤として、現場の看護職に求められる知識・技術・態度についてあらためて考察し、学生自らの課題を見出し、総合的な看護実践能力を高めている。

（４） 教育方針

大学院教育では、将来、世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的・国際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして、高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育・研究者を養成することを目標としている。

授業は、LMS（Learning Management System）による事前課題の提示や提出、講義資料の配信によって事前事後学習の効率化をはかり、また、TV会議システム、ZOOMを使用し遠隔講義、高性能シミュレーターやSimViewを使用した遠隔シミュレーション演習など、ITの活用により複数の拠点から受講できるように工夫している。

研究指導については、5大学の教員による複数指導体制を敷いており、学生は自身の研究テーマに応じて、対面および遠隔システムを利用して充実した指導を受けることができるようになっている。

学部教育では、看護専門職に求められる知識・技術・態度、看護観について学生自身が4年間の学修を通して育み、既習の知識や技術を基盤とした総合的な臨床実践能力を有する実践者を養成することを目標としている。最終学年である4年次生の2科目では、既習の知識・技術を基に総合的な臨床実践能力を養成するシミュレーション教育、実習を配置している。

(5) 臨床活動および学外活動

様々な災害へ対応できる能力を養うため、先駆的に被ばく医療の教育・研究に携わっている弘前大学等との大学間の交流や、他の博士課程リーディングプログラムの大学等との交流をはかり、また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、国会見学などのインターンシップ、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。また国際学会・国内学会に積極的に参加し、学会発表や、他国の研究者・学生との英語による交流会も積極的に企画・参加しグローバルな視点を養うための工夫を詰めている。

(6) 研究業績

[原著]

1. 田中加苗, 佐々木吉子, 三浦英恵. 学童後期だった人々が 20 年後に語る阪神・淡路大震災の人生への影響 日本災害看護学会誌. 2020.06; 21(3); 75-86
2. Noguchi K, Ochiai R, Imazu Y, Tokunaga-Nakawatase Y, Watabe S. Incidence and Prevalence of Infectious Diseases and Their Risk Factors among Patients Who Use Visiting Nursing Services in Japan. Journal of community health nursing. 2020.07; 37(3); 115-128
3. 森 朱輝, 落合 亮太, 徳永 友里, 今津 陽子, 平井 美佳, 渡部 節子. 紙筆版結核 IAT (Implicit Association Test: 潜在連合テスト) の作成および信頼性・妥当性の検討 日本看護科学学会誌. 2020.09; 40; 143-151
4. 古屋裕美, 宮前繁, 田中加苗, 濱舘陽子, 小曾根京子, 菅原千賀子, 谷本美保子, 鐘ヶ江紗里, 小川裕美子, 鴨田玲子, 藤村麻衣子, 駒形朋子, 佐々木吉子. 災害急性期の病院対応に焦点化した単日完結のハイブリッド型災害看護実習における学生の学び 日本災害看護学会誌. 2020.12; 22(2); 63-74
5. 山崎達枝, 城戸口親史, 久保恭子, 佐々木吉子, 西上あゆみ, 深谷真智子, 山下留理子. 日本災害看護学会ネットワーク活動委員会活動報告—平成 28 年 8 月～令和元年 6 月における活動— 日本災害看護学会誌. 2020.12; 22(2); 138-144
6. 宮前繁, 稲垣真梨奈, 藤井愛海, 小林賢吾, 佐々木康介, 酒井彰久, 神原咲子. COVID-19 対応における若手アカデミープロジェクトの活動 日本災害看護学会誌. 2020.12; 22(2); 112-115
7. 古屋 裕美, 宮前 繁, 田中 加苗, 濱舘 陽子, 小曾根 京子, 菅原 千賀子, 谷本 美保子, 鐘ヶ江 紗里, 小川 裕美子, 鴨田 玲子, 藤村 麻衣子, 駒形 朋子, 佐々木 吉子. 災害急性期の病院対応に焦点化した単日完結のハイブリッド型災害看護実習における学生の学び 日本災害看護学会誌. 2020.12; 22(2); 63-74

[書籍等出版物]

1. 佐々木吉子. 第 3 章亜急性期の災害保健医療と看護実践, II 災害時の医療と看護実践 (小井土雄一・石井美恵子編. 新体系看護学全書. 災害看護学). 株式会社メヂカルフレンド社, 2020.02 (ISBN : 978-4-8392-3366-2)
2. 今津陽子, 渡邊真理. 大規模災害発生時におけるがん看護継続支援システムの検討-全国がん診療連携拠点病院等の災害対策状況・災害を見据えたがん看護実践の現状調査-. 公益財団法人安田記念医学財団 癌研究助成成果報告集 18,89-92, 2020.03
3. 山崎智子・佐々木吉子(編). はじめての看取りケア. メヂカルフレンド社, 2020.06 (ISBN : 978-4-8392-1661-0)
4. Ann B. Hamric et al/ 中村美鈴, 江川幸二監訳, 佐々木吉子 (分担訳). 高度実践看護 統合的アプローチ第 6 版 (翻訳). へるす出版, 2020.11 (ISBN : 978-4-89269-996-2)

[総説]

1. 佐々木吉子. Best practices in the reporting of participatory action research (解説) 看護研究. 2020.04; 53(2); 110-111

[講演・口頭発表等]

1. 小曾根京子, 鈴木聡子. 2019 年モザンビークサイクロン被害における国際緊急援助隊医療チームの活動: 感染予防・隔離. 第 25 回日本災害医学会総会・学術集会 2020.02.21 神戸市
2. 鈴木聡子, 小曾根京子. 2019 年モザンビークサイクロン被害における国際緊急援助隊医療チームの活動: 妊婦への支援. 第 25 回日本災害医学会総会・学術集会 2020.02.21 神戸市

3. 今津陽子, 渡邊真理, 菅野雄介, 井上智香, 大社理奈, 岩井典子. 全国がん診療連携拠点病院における災害対策の整備状況の実態. 第 34 回日本がん看護学会学術集会 2020.02.22 東京
4. 今津陽子, 熊谷香織, 熊谷直美, 森朱輝, 浅田行紀, 今井隆之. 頭頸部がん術後患者の災害に対する備えの実態. 第 34 回日本がん看護学会学術集会 2020.02.23 東京
5. Mori T , Ochiai R , Tokunaga-Nakawatase Y , Imazu Y , Watabe S. Development of a Paper Version of the Tuberculosis Implicit Association Test (IAT) and its Reliability and Validity. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020.02.26 Osaka, Japan
6. 鐘ヶ江紗里. Global Career Series 第 5 回. Global Career Series 2020.09.27 オンライン
7. 三浦 英恵, 宮前 繁, 佐々木 康介, 神原 咲子. マスギャザリングにおける看護職を対象とした教育プログラムの開発. 日本災害看護学会第 22 回年次大会 2020.09.28 広島県
8. 藤井 愛海, 小林 賢吾, 宮前 繁, 稲垣 真梨奈, 酒井 彰久, 佐々木 康介, 神原 咲子. 平成 28 年熊本地震における災害関連死の実態と必要な看護支援についての検討. 日本災害看護学会第 22 回年次大会 2020.09.28 広島県
9. 小川裕美子, 佐々木吉子. 災害時に拠点となる医療機関において CBRNE 災害対応に携わる看護師の学習意欲を高める教育プログラムの開発. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 東京
10. 山本晴美, 瀬在泉, 加藤千洋, 久保田聡美, 小林康江, 大野佳子, 藤澤雄太, 佐々木吉子, 藤村麻衣子. 看護職による COVID-19 相談業務と動機づけ面接の活用-「関わり」と「不協和」「維持トーク」への対応-. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.12 東京
11. 駒形朋子, 小笹由香, 佐々木吉子. AI とのワークシェアを視野に入れた看護業務の実態調査研究. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13 東京
12. 田中加苗, 佐々木吉子. 阪神・淡路大震災を学童後期で経験して生きることを意味：ライフストーリーを通じた理解. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13 東京
13. 藤村麻衣子, 佐々木吉子. 化学テロ災害被災者の生活体験. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020.12.13 東京

[Works]

1. 日本クリティカルケア看護学会 COVID-19 重症患者看護実践ガイドの作成（分担；佐々木吉子），その他，2020 年 04 月 - 現在
2. 日本がん看護学会 COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に伴う 外来がん薬物療法を受ける患者・家族への看護実践の手引き（第 1.0 版）の作成（今津陽子），その他，2020 年 06 月
3. 日本がん看護学会災害対策委員会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大にともなう がん治療・看護への影響と支援に関する緊急調査結果報告（今津陽子），その他，2020 年 06 月
4. 日本看護協会スキームによる COVID-19 対応応援派遣（北海道）（鴨田玲子），その他，2020 年 12 月 - 2021 年 01 月

[その他業績]

1. 毎日新聞 2020.12.23 東京版朝刊 くらし面へのインタビュー掲載（今津陽子），2020 年 12 月
「コロナとがん 患者の家族、まず悩み把握を」という題で、新型コロナの流行下でがん患者に家族ができることや、家族が感じるストレスなどに関して回答した。

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援（佐々木吉子），2005 年 10 月 - 現在
2. 慶應義塾大学看護医療学部非常勤講師（佐々木吉子），2008 年 04 月 - 2020 年 09 月 30 日
3. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース（佐々木吉子），日本看護協会，2010 年 - 現在
4. 株式会社アジア共同設計コンサルタントへの技術協力（駒形朋子、宮前繁、谷本美保子、古屋裕美、小曾根京子），2017 年 12 月 25 日 - 現在

5. 国際緊急援助隊 周産期・小児課題検討会 (MNCH 課題検討会) (谷本美保子), 2019 年 04 月 01 日 - 2020 年 03 月 31 日
6. エベレストインターナショナルスクールでのボランティア活動 (駒形朋子), 2019 年 05 月 01 日 - 2020 年 03 月 31 日
7. 令和元年台風 19 号被災地支援 (菅原千賀子), 日本インターナショナル・サポート・プログラム, 宮城県大郷町・福島県伊達市, 2019 年 11 月 15 日 - 現在
8. 東京都防災コーディネーター養成講座の受講と認定取得 (鐘ヶ江紗里), 2020 年 01 月 12 日 - 2020 年 02 月 01 日
9. 国際緊急援助隊 展開訓練にて周産期・小児課題検討会メンバーとして参加し課題の抽出と評価を実施 (谷本美保子), 2020 年 01 月 25 日 - 2020 年 01 月 26 日
10. 横浜市立大学エクステンション講座講演「備えよう防災ー看護師の立場からー」(今津陽子), 福祉保健研修交流センター ウィリング横浜, 2020 年 01 月 30 日
11. ラオス国保健医療ボランティア活動団体への支援 (小曾根京子, 鐘ヶ江紗里), Plumerian, 2020 年 02 月 - 現在
12. 東京医科歯科大学附属病院「第 9 回 BDLS 東京コース」事務局 (藤村麻衣子), 2020 年 02 月 09 日
13. 新型コロナウイルス感染症陽性患者搬送 (宮前繁), 厚生労働省 DMAT 事務局, 2020 年 02 月 10 日
14. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援 (今津陽子), 2020 年 04 月 - 現在
15. 東京慈恵会医科大学医学部看護学科非常勤講師 (災害看護学; 佐々木吉子), 2020 年 04 月 01 日 - 現在
16. 文京保健所業務継続のための応援派遣 (今津陽子), 2020 年 04 月 08 日 - 2020 年 08 月 31 日
17. 甲南女子大学看護リハビリテーション学部ゲストスピーカー (国際看護開発学統合実習; 佐々木吉子), 2020 年 05 月 19 日
18. 横浜実践看護専門学校 非常勤講師 (菅原 千賀子), 横浜実践看護専門学校, 2020 年 07 月 11 日 - 2021 年 01 月 20 日
19. NPO ふるさとのか 防災訓練 (小曾根京子), 東京都台東区, 2020 年 08 月 22 日
20. 文京学院大学 災害看護学 (菅原 千賀子), 2020 年 10 月 07 日
21. 横浜市災害支援ナース登録推進研修 災害看護～災害医療における看護職の役割～ (佐々木吉子), 横浜市, 神奈川県総合医療会館, 2020 年 10 月 25 日
22. 東京駅周辺防災隣組第 86 回総会での講演・プロジェクト発表 (今津陽子、佐々木吉子、小曾根京子、鴨田玲子、鐘ヶ江紗里、藤村麻衣子): 「Zoom を活用した KUG (帰宅困難者受け入れ施設運営訓練) の紹介・体験会の企画運営」, 2020 年 11 月 17 日

Ⅲ.2020 年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

2020年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士(看護学)55名

	学 生 氏 名	論 文 題 目
1	岩 瀬 夢	病院で働く母親役割を持つ女性看護師の健康習慣:未就学児の末子の有無における比較
2	大 塚 咲 紀	The Person-centered Care Assessment Tool (P-CAT)日本語版の信頼性・妥当性の検討:特別養護老人ホームを対象に
3	今 実 紅	病院で働く新人看護職者の離職意図とソーシャルサポートの関連の検討
4	高 木 慶 子	認知症高齢者への観察式疼痛評価ツールの臨床における“使いやすさ”の文献検討
5	額 賀 み の り	脳梗塞で自宅から入院した高齢患者における、自宅外退院に影響する要因の検討—DPCデータを用いた後方視的分析—
6	野 田 京 花	誤嚥性肺炎で自宅から入院した高齢患者の自宅外退院に影響する要因の検討—DPCデータを用いた後方視的分析—
7	増 田 梨 夏	特別養護老人ホームにおける最期の時の緊急搬送の現状および最期の穏やかさとそれを支える職員による創意工夫
8	森 み ど り	ロボットないしAIを用いた認知症高齢者に対する介入研究の評価項目についての文献レビュー
9	滝 口 桜 央	看護師の業務により生じる下肢浮腫に関する文献検討—測定方法に着目して—
10	丸 山 奈 々 花	身体障害を持つ患者への障害受容を促す看護師の関わりに関する文献検討
11	佐 野 愛 梨	訪問看護ステーションにおける感染症防止マニュアルの活用の実態と関連要因—全国調査の二次分析
12	竹 原 菜 々 子	看護師の手荒れの実態および要因に関する文献検討
13	松 井 有 希	患者とのコミュニケーションにおける看護学生の困難感に関する文献検討
14	中 島 萌	精神科に勤務する看護師が抱く陰性感情の実態に関する文献レビュー
15	西 澤 杏 奈	統合失調症を有する人ががん罹患した際のケアに関する文献レビュー
16	山 口 陽 奈 子	看護師のバーンアウト軽減に関する介入研究レビュー
17	坂 元 里 乃	統合失調症を有する妊産褥婦に対する産科での看護援助に関する文献レビュー
18	堀 江 理 聖	がん罹患した妻をもつ父親のメンタルヘルスに関する文献検討
19	三 原 麻 友 香	LGBTが周産期、子どものためのヘルスケアサービスに繋がったときの経験に関する文献検討
20	清 水 萌 々 果	小児がんを経験した子どもが復学後に抱く不安や困難に関する文献検討
21	町 田 亜 優	終末期における小児がん患者の親への情緒的支援に関する文献検討
22	古 仙 紀 美 香	現代の父親の育児困難・葛藤と今後の育児支援の在り方
23	木 村 瑛 玲 菜	保護者が新型コロナウイルスなど新興感染症にかかった際の子供への対応について
24	磯 ヶ 谷 彩 絵	双子の母親の母乳育児における困難やその要因に関する文献検討
25	古 屋 真 衣	臨地実習における看護学生の動機付け尺度の開発
26	渡 邊 美 咲	第2子出産前後の母親の第1子に関する困難感と妊娠期の看護職による支援の文献検討
27	渡 邊 佑 季 子	産後うつ回復への支援に関わる介入・要因・アセスメントについて
28	池 谷 紗 英	COVID-19による休校措置に伴い養護教諭が行った児童の精神的課題への対応

	氏 名	論 文 題 目
29	菊 池 優 香	養護教諭における心の健康問題を持つ中学生への支援プロセス
30	河 野 晴 華	乳児家庭に対し保健師が行う電話による支援の実状と困難
31	長 谷 川 真 由	新型コロナ禍における乳幼児健診が実施できない場合の母子への支援と課題
32	濱 本 理 沙	技能実習生への健康支援における現状と今後の課題
33	宮 本 優 華 子	大学1.2年生を対象とした子宮頸がん検診受診に関する教育的介入の有効性について
34	竹 内 綾 香	看護学生のプロテイン利用実態・認識とたんぱく質摂取量の関連性
35	細 貝 歩 加	医療系学生のオンライン授業における学習状況と身体への影響
36	菅 原 智 瑛	「死」を扱った物語から得られる死生観と物語の死生観教育への有用性
37	辻 映 理 奈	がん化学療法により脱毛を経験した患者の困難と対処に関する研究
38	西 澤 堇	意思決定における日本人の特徴—アメリカに住む日本人との比較から—
39	植 木 理 央	Current situation and challenges of interprofessional collaboration between primary care nurse practitioners and medical staff, a literature review
40	菅 野 咲 子	化粧療法のプログラムとその有用性に関する文献検討
41	竹 内 智 香	EPA看護師が日本で働く際の看護実践における各国の課題に関する文献検討
42	峯 島 真 結	Practical issues related to nursing care for foreign patients: Comparing Japan's status with other countries, a literature review
43	白 石 菜 緒	認知症高齢者を配偶者が在宅で介護する際、介護者へ与える影響に関する文献検討
44	長 谷 川 晟 愛	地域で暮らす高齢者がACPに取り組むための動機づけに影響を及ぼす要因
45	東 浜 未 来	認知症独居高齢者の在宅療養における困難に関する文献検討
46	穂 苺 桃 子	回復期リハビリテーションにおける看護師と他職種の協働に関する文献検討
47	日 高 愛 咲	高齢者の退院遅延に影響する医療側の要因に関する文献検討
48	伊 奈 幹 生	看護記録の効率化が期待されるICT等の技術の本邦での研究状況と課題に関する文献検討
49	久 保 田 真 帆	脳死下のドナー家族への看護支援に関する文献検討
50	大 山 朋 実	妊娠可能年齢にある女性炎症性腸疾患患者の自発的無子を誘発する要因に関する文献検討
51	山 田 真 理 子	周術期の患者教育におけるタブレット端末等の使用の方法と効果に関する文献検討
52	佐 川 愛 佳	病棟看護師の死生観に影響した臨床場面に関する文献検討
53	小 沢 野 々 香	救急領域における看護師による家族の代理意思決定支援に関する文献レビュー
54	八 島 礼 佳	パーキンソン病患者における自己効力感向上に向けた支援についての文献検討
55	南 歩 希	救急外来におけるトリアージナースによる院内トリアージの課題に関する文献検討

IV. 2020 年度大学院保健衛生学研究科博士課程

課題研究題目一覧表

2020年度大学院保健衛生学研究科博士（前期・後期）課程学位論文一覧表

○修士（看護学）6名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	伊 藤 絢 乃	看護先進科学専攻	緒方 泰子	ヘルスケア領域における心理的安全性(psychological safety)の概念分析	佐々木 吉子	福井 小紀子	森岡 典子
2	華 婧	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Job satisfaction among Foreign-educated nurses: a systematic review	佐々木 明子	森田 久美子	矢郷 哲志
3	笹 井 佳 奈	看護先進科学専攻	緒方 泰子	施設入居高齢者と子どもを対象とした世代間交流プログラムに関するスコーピングレビュー：プログラムの内容とアウトカムの測定方法に着目して	田中 真琴	森田 久美子	三隅 順子
4	野 中 さ ゆ り	看護先進科学専攻	福井 小紀子	生活を中心とする場のアドバンスケアプランニングに関する看護師の関わりの海外文献の検討	田中 真琴	佐々木 美樹	津田 紫緒
5	三 橋 佳 代 子	看護先進科学専攻	森田 久美子	健康行動に対する“自律性”の概念分析	佐々木 明子	柏木 聖代	内堀 真弓
6	八 鍛 類 子	看護先進科学専攻	田中 真琴	HIV感染者における患者・医療者関係の評価に関するスコーピングレビュー	福井 小紀子	今津 陽子	森岡 典子

課程博士

○博士（看護学）4名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	木 田 亮 平	看護先進科学 (高齢社会看護システム管理学分野)	緒方 泰子	The association between workplace social capital and authentic leadership, structural empowerment, and forms of communication as antecedent factors in hospital nurses: a cross sectional multilevel approach	田中 真琴	福井 小紀子	高野 歩
2	田 村 里 佳	看護先進科学 (がんエンドオブライフケア看護学分野)	山崎 智子	“I’ ll Try My Best to be a Dad” : The Experiences of Japanese Fathers with Cancer	大久保 功子	佐々木 明子	岡光 基子
3	小 坂 志 保	看護先進科学 (先端侵襲緩和ケア看護学分野)	田中 真琴	Association among kidney function, frailty, and oral function in patients with chronic kidney disease: a cross-sectional study.	柏木 聖代	戸原 玄	佐々木 美樹
4	松 井 憲 子	看護先進科学 (地域健康増進看護学分野)	田中 真琴	Post-intensive care syndrome in patients with sepsis and a proposal for the foundation for a PICS care program : a mixed methods study	佐々木 吉子	柏木 聖代	近藤 暁子

課程博士

○博士（看護学）3名

	氏 名	専 攻	指 導 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	菅 原 千 賀 子	共同災害看護学	佐々木 吉子	東日本大震災における被災地自治体職員の体験の理解	佐々木 吉子 (東京医科大学)	山田 寛 (高知県立大学) 増野 園恵 (兵庫県立大学)	宮崎 美砂子 (千葉大学) 野口 眞貴子 (日本赤十字看護大学)
2	谷 本 美 保 子	共同災害看護学	佐々木 吉子	大災害時に子どもを持つ共働きの災害対応者の役割葛藤と対応のプロセス	佐々木 吉子 (東京医科大学)	神原 咲子 (高知県立大学) 梅田 真希 (兵庫県立大学)	佐藤 奈保 (千葉大学) 野口 眞貴子 (日本赤十字看護大学)
3	古 屋 裕 美	共同災害看護学	佐々木 吉子	大規模災害時の被災労働者支援の経験における産業看護職のTransformative Learning	佐々木 吉子 (東京医科大学)	山田 寛 (高知県立大学) 増野 園恵 (兵庫県立大学)	宮崎 美砂子 (千葉大学) 野口 眞貴子 (日本赤十字看護大学)

論文博士

○博士（看護学）2名

	氏 名	推 薦 教 員	論 文 名	主 査	副 査	副 査
1	奥 川 沙 希	田中 真琴	Changes in the nutritional and activity status of elderly patients within 6 months of transcatheter aortic valve replacement: a mixed methods approach.	緒方 泰子	近藤 暁子	佐々木 吉子
2	前 田 留 美	緒方 泰子	A survey of accuracy of nurses' clinical judgement of cutaneous graft - versus - host disease in Japan	福井 小紀子	田中 真琴	今津 陽子

V. 委員会委員名簿

〔大学院〕

保健衛生学研究科長：大久保

大学院教育委員会委員長：田中

看護先進科学専攻長：佐々木(吉)

共同災害看護学専攻長：佐々木(吉)

生体検査科学系教授会議長：沢辺

〔学部〕

保健衛生学科長：沢辺

学部教育委員会委員長：緒方

看護学専攻主任：緒方

検査技術学専攻主任：角

☆責任者 ○副責任者 () オブザーバー

〔大学院教育委員会〕		☆田中、佐々木(吉)、大久保、山崎、(福井、緒方、今津)	
〔学部教育委員会〕		☆緒方、柏木、岡光、角、大川、齋藤、(大久保、沢辺、佐々木(吉))	
〔国際教育・研究センター〕	【看】	○佐々木(明)、近藤、福井、高野、津田	
	【検】	☆沢辺、大川、鈴木、齋藤、西尾	
〔海外学生交流受入 WG〕	【検】		
〔専門看護師検討 WG〕	【看】*	☆佐々木(吉)、山崎、福井、今津、高野、田中、緒方、(大久保)	
〔医歯学融合教育委員会〕	【看】	(科目担当) 佐々木(吉)、今津、廣山	
	【検】	角、大川、西尾 [「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 藤代、亀田]	
〔スキルス・ラボ検討委員会〕	【看】	担当者なし	
	【検】	☆角	
〔学部カリキュラム委員会〕	【看】*	☆柏木、佐々木(明)、近藤、森田、岡光、森岡、高野、今津、内堀、廣山、湯本	
	【検】	☆角、沢辺、大川、齋藤	
〔検査 CBT/OSCE 導入準備委員会〕	【検】	☆角、○大川、齋藤、西尾、赤座、(沢辺)	
〔実習・臨地実習担当委員会〕	【看】	☆岡光*、○廣山*、○三隅*、森田*、山崎、佐藤、高野、森岡*、今津、内堀、遠藤、大河原、津田、矢郷、湯本、栗林*、佐々木(美)、藤波、鈴木 *カリキュラム WG	
	【検】	☆角、沢辺、○齋藤、西尾、大川、副島、赤座、亀田	
〔卒業研究委員会〕	【看】	☆森田、内堀、遠藤、矢郷、佐々木(美)	
	【検】	☆星、鈴木、本間、赤座、藤代	
〔進路指導委員会〕	【看】	3・4 年生学年担任	
	【検】	☆齋藤、○大川、鈴木、西尾、本間、副島、藤代、亀田	
〔国試対策委員会〕	【看】	☆高野、大可原	
〔学部教育向上・国試対策委員会〕	【検】	☆大川、角、○齋藤、西尾、本間、亀田、(沢辺)	
〔図書・広報委員〕	【看】	☆森岡、遠藤	
	【検】	☆星、角、大川、西尾、	
〔学年担任〕		【看】	【検】
・ 1 年生 (31 回生)		福井、津田	西尾
・ 2 年生 (30 回生)		柏木、廣山	鈴木
・ 3 年生 (29 回生)		森田、矢郷 (進路指導担当)	齋藤
・ 4 年生 (28 回生)		田中、大河原 (進路指導担当)	伊藤
〔試験監督調整委員〕		内堀	本間、赤座、副島、藤代、亀田
〔親睦会・会計〕		☆近藤、今津、三隅、佐々木(美)	☆伊藤、赤座、亀田
〔保健衛生学科 FD 委員会〕		☆柏木、佐々木(明)、前田	☆伊藤
〔教育技法 FD 委員会〕		☆前田	☆沢辺
〔LAN・ホームページ担当 WG〕		☆大河原、湯本	☆角、大川、西尾、本間、副島、
〔自己点検・評価委員会〕	【看】	☆佐々木(明)、山崎、矢郷、栗林	
	【検】	☆沢辺、角、大川、齋藤、赤座、亀田	
〔競争的資金獲得検討委員会〕	【看】	☆大久保、佐々木(明)、福井、佐々木(吉)、近藤、田中、柏木、緒方	
〔生体検査科学セミナー〕	【検】	☆伊藤、鈴木、藤代、亀田	
〔オープンキャンパス・受験生対策 WG〕	【看】	☆森田、山崎、三隅、湯本、佐々木(美)、栗林(オープンキャンパス当日は全分野の助教)	
	【検】	☆西尾、○角、沢辺、本間、赤座、藤代、亀田	
〔医歯学附属病院研究支援〕	【看】	☆福井、岡光、前田	
〔生体検査科学系大学院検討委員会〕	【検】	☆伊藤、○沢辺、大川、鈴木	

*定期的に情報共有。例：①各委員長・大学院教育委員長・学部教育委員長・研究科長 →②全教授 (→③全教員)

VI. 就職状況一覧表（2021 年 3 月卒業・修了者）

就職状況一覧表

2021.5.1現在

(看護先進看護学・総合保健看護学・共同災害看護学)

区分			学部 (看護学)		大学院			
					博士(前期)課程		博士課程 博士(後期)課程	
			小計	合計	小計	合計	小計	合計
進学	本学		0	4			0	0
	本学以外		4				0	
就職	看護師	本学	29	51			0	7
		本学以外	19				2	
	保健師		2				1	
	助産師		0				0	
	助教(大学機関)		0				3	
	助手(大学機関)		0				0	
	講師(大学機関)		0				1	
	その他		1				0	
	その他(不明)				0			
合計			55			7		

東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科年報

2020年度

保健衛生学研究科教育委員

田 中 真 琴 委員長

大久保 功 子

山 崎 智 子

佐々木 吉 子

発 行
編集・発行

2022年3月

東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

<http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html>